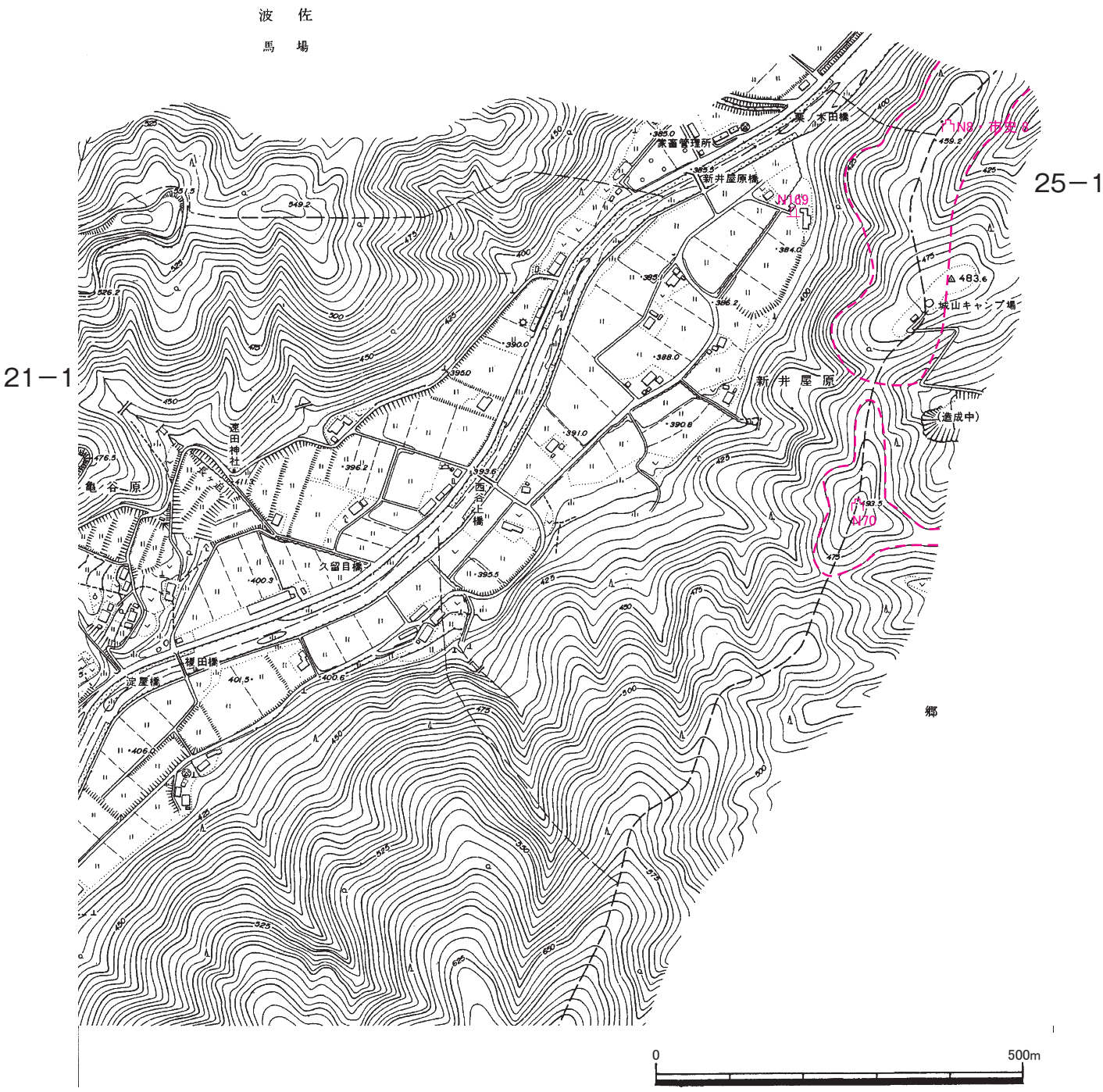
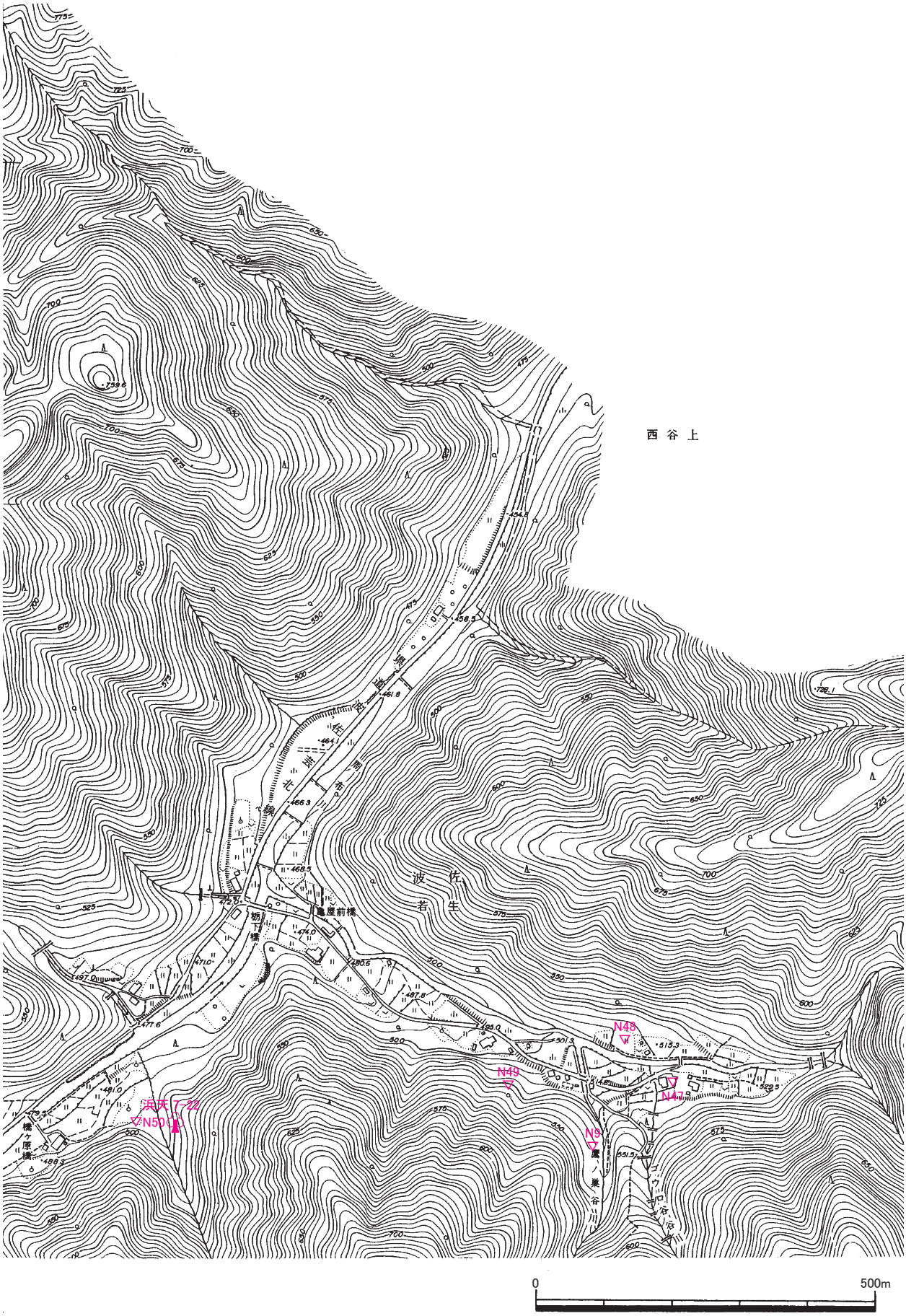


N8　波佐一本松城跡（市史８）　　N70　水見城跡　　N169　剣の墓

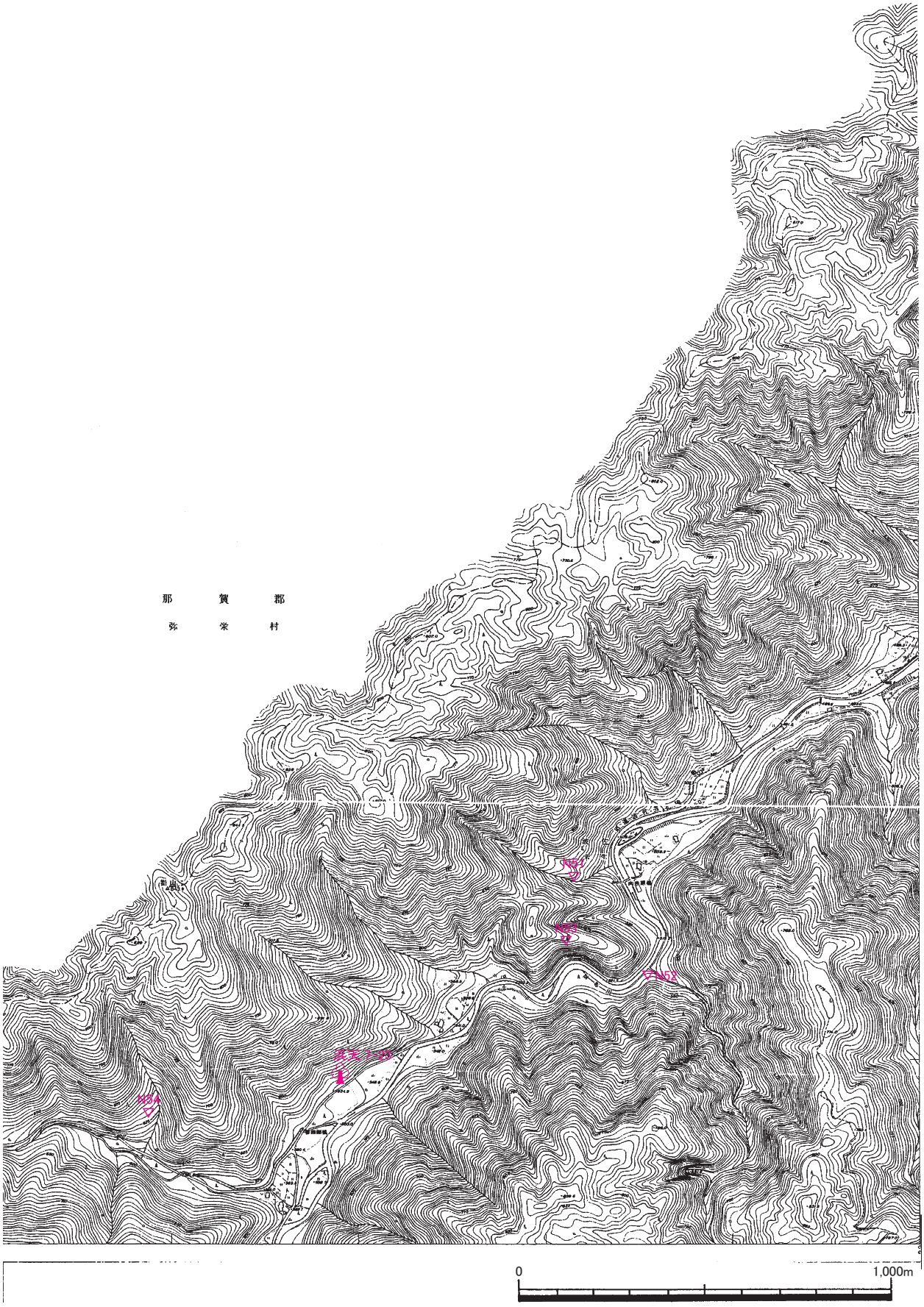
22－1

23－1



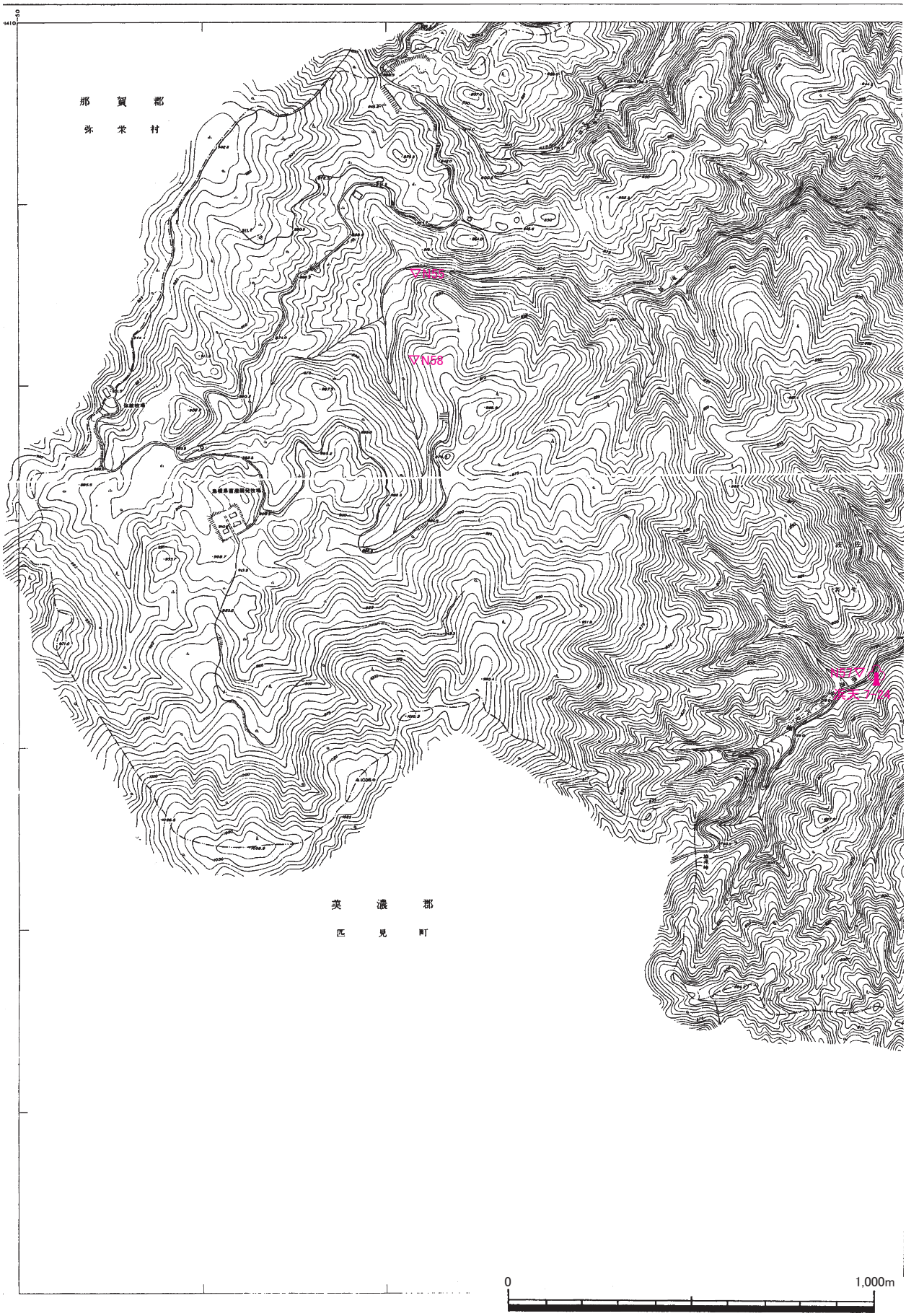
N9　栃下Ⅰ鈩跡　　N47　栃下Ⅱ鈩跡　　N48　栃下Ⅲ鈩跡　　N49　栃下鍛冶屋跡　　N50　宇谷鈩跡

浜天7－22　若生のケヤキ巨樹群



N51　ウナギ渕鈩跡　　N52　来ル実鈩跡　　N53　飯ノ山鈩跡　　N54　打尾谷鈩跡
浜天7－23　若生の大モミジ

24－1



N55　鍋滝Ⅰ鈩跡　　N57　鍋滝Ⅲ鈩跡　　N58　泊小屋鉄穴跡

浜天7－24　鍋滝のカツラ

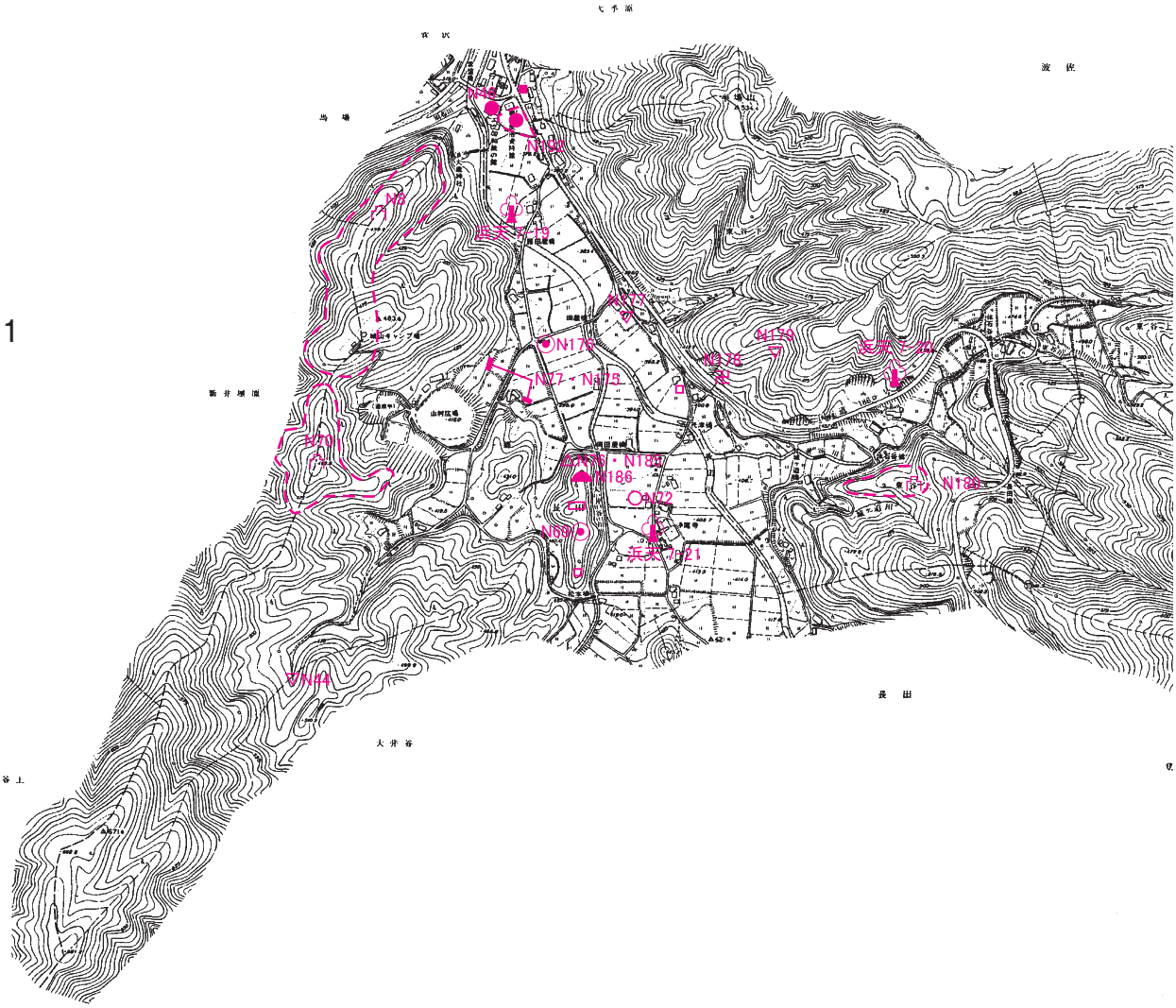
24−2

24−1

N56　鍋滝Ⅱ鈩跡

25－1　　20－6　　19－2

21－1

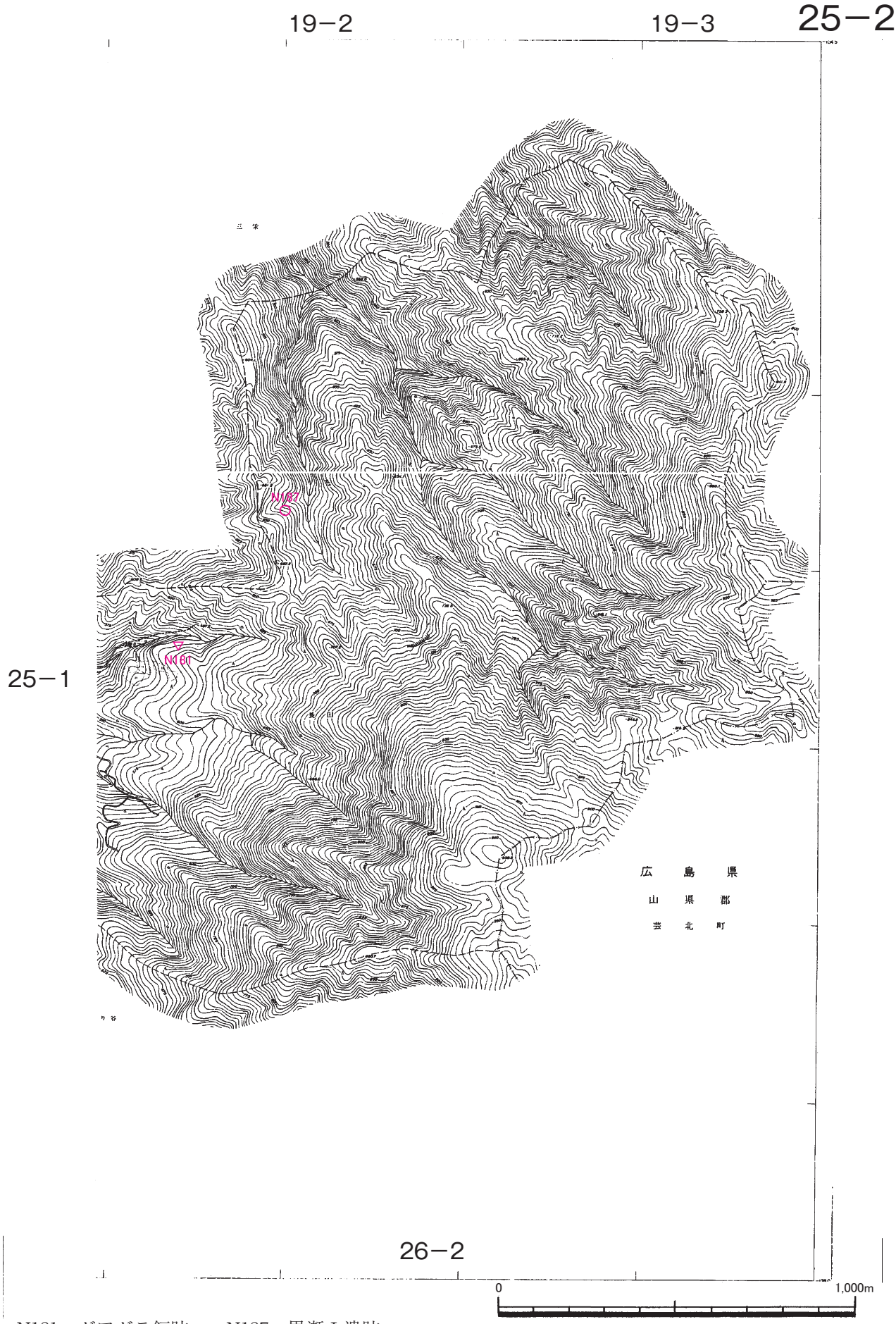


25－2

26－1　　26－2

0　　1,000m

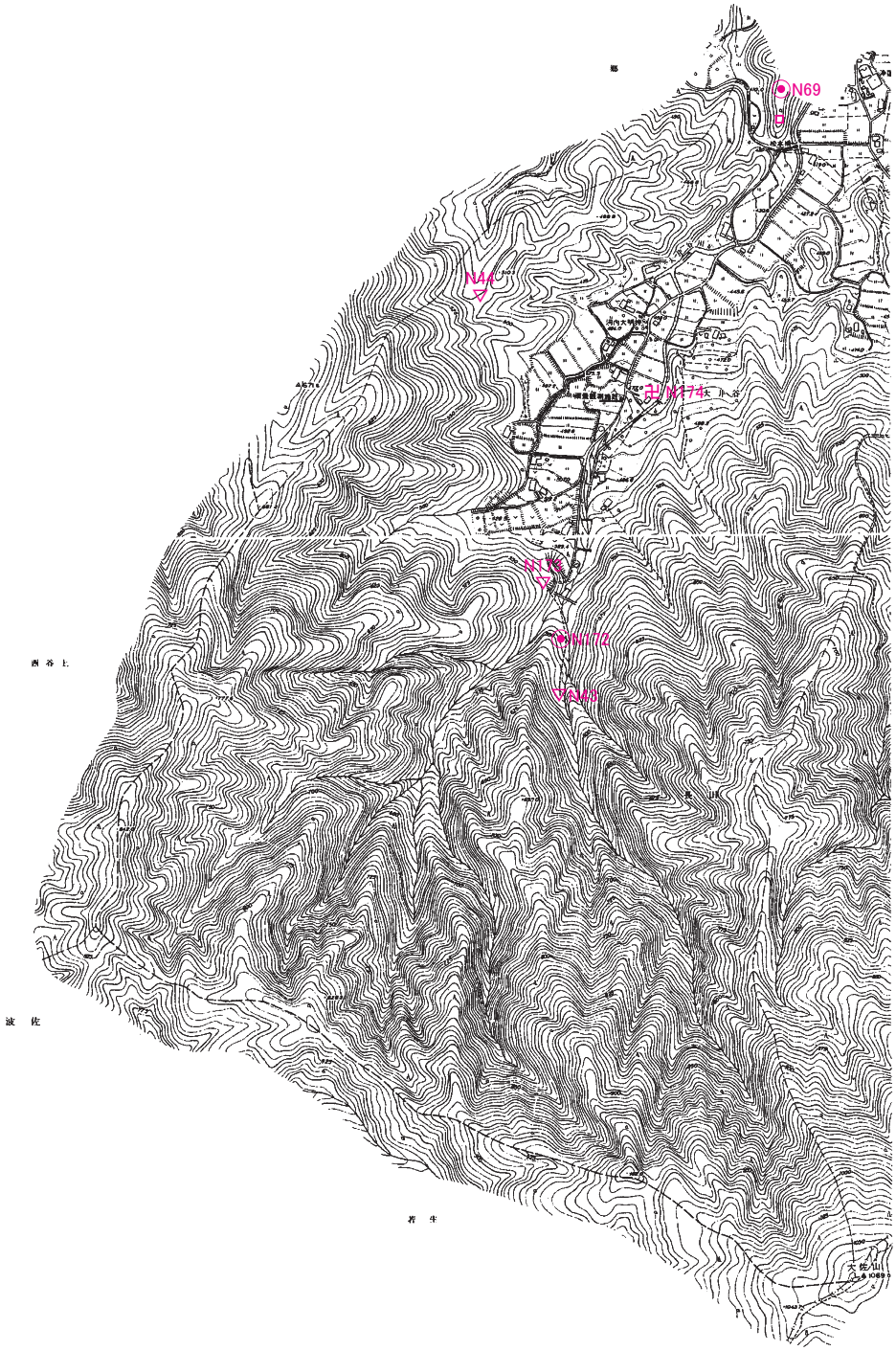
N8　波佐一本松城跡　　N44　丸迫鉄穴跡　　N46　七渡瀬Ⅰ遺跡　　N69　千年比丘遺跡
N70　水見城跡　　N72　ナゴダ遺跡　　N76　千年比丘窯跡・N185　中曽根東平窯跡
N77　長田郷遺跡・N175　城ノ前遺跡　　N176　田屋庄屋跡　　N177　堂ヶ原鈩跡
N178　正古庵跡　　N179　正古庵鉄穴跡　　N180　長田城跡　　N186　千年比丘古墳群
N192　七渡瀬Ⅱ遺跡
浜天7－19　長田郷の大エノキ　　浜天7－20　東谷上の大ガシ　　浜天7－21　浄蓮寺のハクモクレン



N181　ダアダラ鈩跡　　N187　黒瀬Ⅰ遺跡

26－1

25－1



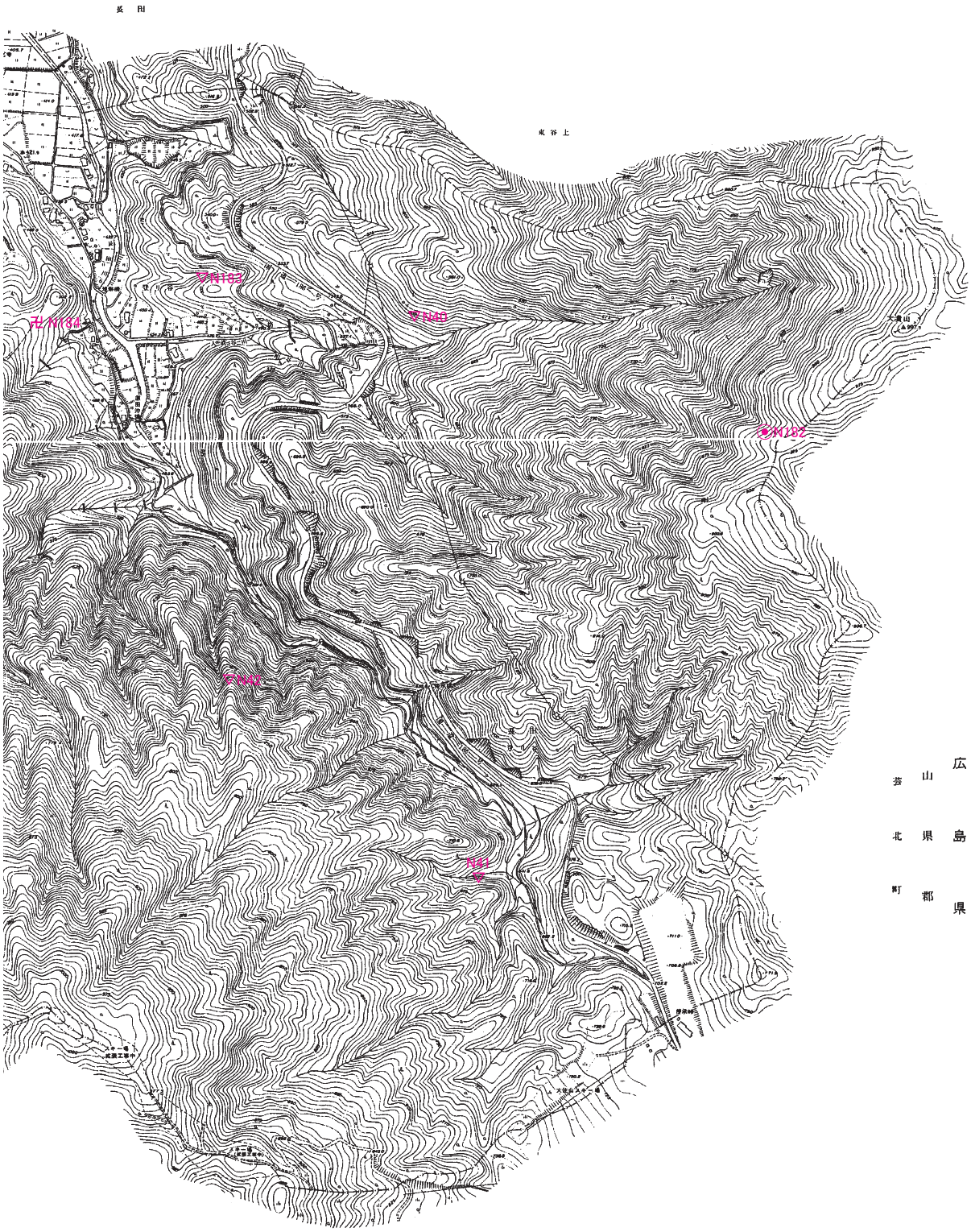
26－2

0　1,000m

N43　表谷鉄穴跡　　N44　丸迫鉄穴跡　　N69　千年比丘遺跡　　N172　八幡岩遺跡
N173　表谷鈩跡　　N174　恵日山本覚寺跡

25−1　　25−2　　26−2

26−1



0　　1,000m

N40　大潰鉄穴跡　　N41　傍示鈩跡　　N42　トヤゴウ鉄穴跡　　N182　傍示西平土塁
N183　吹ヶ迫鈩跡　　N184　寺田庵跡

金城　N（所在地の地番は金城町教育委員会 1986・1987 より作成・地籍調査による番地変更もある。）

番号	名　称	種　別	所　在　地	概　要	備　考
1	今福古墳	古墳	久佐　塚神畑 ハ 32-1	円墳	消滅
2	金木城跡	城跡	上来原　金木城 907	山城	
3	田ノ原鈩跡	製鉄遺跡	小国　勘場 イ 585-3		消滅
4	小境ヶ谷鈩跡	製鉄遺跡	小国　境ケ谷 ハ 313	鉄穴流し	
5	金田古墳群	古墳	下来原　金田	2 基	
-1	金田 1 号墳	古墳	下来原　八蔵ヶ原平 1334-3	円墳、横穴式石室、人骨、直刀、金環、須恵器、土師器	墳丘・出土品市指定
-2	金田 2 号墳	古墳	下来原　八蔵ヶ原平 1334-3	鉄製直刀	消滅
6	下長屋古墳	古墳	下来原　河角セド山 1082-3	円墳、横穴式石室、須恵器	消滅
7	火塚平古墳	古墳	下来原　ヒツカ平 1081-1	円墳、横穴式石室	半壊
8	波佐一本松城跡	城跡	波佐　城山　イ 1254	山城	波佐城跡、市指定
9	栃下Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　栃下奥　イ 948 第 4	金池	
10	小国城跡	城跡	小国　最中山　イ 804	山城	
11	柿ノ木遺跡	散布地	小国　柿ノ木小国 イ 167-2	磨製石斧	
12	福原鈩跡	製鉄遺跡	追原　カナクソ 1286		
13	乙明鈩跡	製鉄遺跡	追原　入野　鈩ヶ迫 1161		
14	大元鈩跡	製鉄遺跡	追原　新鈩中の釜　2003		
15	美又鈩跡	製鉄遺跡	追原　道辛原　39-1		消滅
16	藤ヶ谷鈩跡	製鉄遺跡	七条　稗田後　ロ 473-1		
17	吉留鈩跡	製鉄遺跡	下来原　鈩ヶ迫　1161		
18	青原鈩跡	製鉄遺跡	下来原　椿ヶ谷　イ 779-1		
19	上来原鈩跡	製鉄遺跡	上来原　蛇ノ谷奥　848-1		
20	高良谷鈩跡	製鉄遺跡	久佐　高良谷　1198		
21	小原谷鉄穴跡	製鉄遺跡	久佐　高良台　1198		
22	白甲Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　松尾谷　ロ 379		
23	白甲Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　白甲　ロ 76		
24	宇栗鈩跡	製鉄遺跡	久佐　鉄穴ヶ塩　ロ 482		
25	坂根Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	小国　表谷本塩　ハ 89		
26	坂根Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	小国　坂根門切　ハ 78		消滅
27	宇栗道鈩跡	製鉄遺跡	小国　堀田　ハ 96		
28	作見谷鉄穴跡	製鉄遺跡	小国　作見谷　ハ 59		
29	洗庭鉄穴跡	製鉄遺跡	小国　境ヶ谷　ハ 39-1	巨石群が散在	
30	桐之木鉄穴跡	製鉄遺跡	小国　狸ノ城　ハ 399-1	水路跡	
31	小屋ヶ谷鈩跡	製鉄遺跡	小国　鈩床　ハ 346	金池	
32	二子山鉄穴跡	製鉄遺跡	小国　鉄穴　イ 247	水路跡	
33	大利鍛冶屋跡	製鉄遺跡	小国　大利　イ 518-1		
34	犬戻り鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鈩床山口　ロ 108		
35	長沢鈩跡	製鉄遺跡	波佐　長澤　イ 250		
36	桂迫鈩跡	製鉄遺跡	波佐　石仏有ノ木谷菅沢　イ 1189	天保 11 年開設	
37	黒瀬鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鈩床　イ 172	鈩場略図面（明治 7 年）	
38	小松木鉄穴跡	製鉄遺跡	波佐　小松木　イ 1104	鉄穴水路跡、炉場略図面（明治 7 年）	
39	槇ケ曽根鈩跡	製鉄遺跡	波佐　大白イ谷　イ 1111	鉄穴水路跡	
40	大潰鉄穴跡	製鉄遺跡	長田　牛岩平　イ 452	鉄穴水路跡	坊主鉄穴跡
41	膀示鈩跡	製鉄遺跡	長田　膀示西平　イ 467-1	天正元年開設	膀示夏焼鈩跡
42	トヤゴウ鉄穴跡	製鉄遺跡	長田　鳥屋郷　イ 467	鉄穴水路跡	
43	表谷鉄穴跡	製鉄遺跡	長田　大井谷奥山　ロ 261	鉄穴水路跡	
44	丸迫鉄穴跡	製鉄遺跡	長田　丸迫谷山　ロ 286	鉄穴水路跡	
45	うのや鈩跡	製鉄遺跡	波佐　宇野屋　イ 759		
46	七渡瀬Ⅰ遺跡	製鉄遺跡	波佐	縄文土器、弥生土器他	発掘調査・旧称七渡瀬遺跡
47	栃下Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　栃下奥　イ 948 第 2	金池	
48	栃下Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　日ノ平奥　イ 1297		
49	栃下鍛冶屋跡	製鉄遺跡	波佐　栃下奥　イ 943 第 2		
50	宇谷鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鴎谷　イ 990		
51	ウナギ渕鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鈩原　イ 1015		
52	来ル実鈩跡	製鉄遺跡	波佐　来ル実　イ 1018		
53	飯ノ山鈩跡	製鉄遺跡	波佐　飯ノ山　イ 1020		
54	打尾谷鈩跡	製鉄遺跡	波佐　宇津尾谷中　イ 1039		
55	鍋滝Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　泊小屋塩ヨリ西平宇津尾谷両平　イ 1319		
56	鍋滝Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　新屋田平　イ 1316		
57	鍋滝Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鍋滝泊小屋東原	弘化 3 年開設、金屋子神社	
58	泊小屋鉄穴跡	製鉄遺跡	波佐　泊小屋塩奥　イ 1318	鉄穴水路跡、鉄穴絵図	
59	猿ヶ馬場古墳	古墳	下来原　猿ヶ馬場　528-1	須恵器	墳丘破壊
60	本明城跡	城跡	入野　浅ヶ塩　1155	山城、郭、帯郭、腰郭、石塁、井戸跡	乙明城跡、D 20 と同じ
61	田代城跡	城跡	今福　田代山　1607	興国 3 年 2 月 1 日落城	
62	水佐古門遺跡	散布地	下来原　水佐古門田　852-1	須恵器（叩き目）、土師器	
63	郷田門遺跡	散布地	上来原　下野田　514	磨製石斧	
64	雲城山城跡	城跡	七条　椿ヶ谷　イ 779-1	山城	L 217 と同じ
65	火の迫城跡	城跡	小国　火迫城　ハ 433-2		
66	菅沢墳墓	古墓	波佐　沖ノ切尻　イ 497		
67	花城跡	城跡	波佐　城山 イ 1172	元亀元年落城	中谷城跡、姫ノ城跡
68	槇ヶ曽根遺跡	散布地	波佐　大白イ谷　イ 1111	磨製石斧	
69	千年比丘遺跡	経塚	長田　中山	一辺 3 mあまりの方形川石積み	
70	水見城跡	城跡	長田　丸迫山　ロ 287	郭	
71	笠松峠の畳石路	その他	波佐　立添エ　イ 1231	文化 8 年、全長 1200 m 津和野奥筋往還脇道	市指定
72	ナゴダ遺跡	散布地	長田	石斧、須恵器	
73	新屋久保鈩跡	製鉄遺跡	上来原		
74	井口原鈩跡	製鉄遺跡	上来原		
75	沢津Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	追原　下ノ平　2328		
76	千年比丘窯跡	窯跡	長田	瓦	N 185 と同じ、中曽根東平窯跡
77	長田郷遺跡	散布地	長田　鉄穴池　ロ 173 内 3 他	弥生土器、須恵器、縄文土器、陶磁器他	発掘調査・N 175 と同一か、城ノ前遺跡

78	馬場窯跡	窯跡	今田		
79	千元窯跡	窯跡	七条		
80	今浦窯跡	窯跡	下来原	瓦窯跡・明治 45 年頃	N 199 縄ナイ谷窯跡より移転
81	大吉屋窯跡	窯跡	下来原		
82	みさわ窯跡	窯跡	七条　新開		
83	堂原経塚	経塚	追原　セト　1730		
84	福田寺跡	寺院跡	追原　福田寺　328		
85	追原庄屋跡	屋敷跡	追原　間処　223		
86	段原鈩跡	製鉄遺跡	宇津井　下モ田止　952-1		
87	元谷鈩跡	製鉄遺跡	今福　鉄穴口　1178		
88	蔵福庵跡	寺院跡	今福　蔵福庵　1193-1	慶応 2 年安楽寺に合併	
89	境ケ谷鈩跡	製鉄遺跡	今福　鏡ヶ谷　906		
90	境ヶ谷鉄穴跡	製鉄遺跡	今福　鏡ヶ谷上ミ　1747		
91	笠松城跡	城跡	今福　藤ヶ谷セド山　1684		
92	丹久庵跡	寺院跡	今福　丹久山　1609		
93	皆合鈩跡	製鉄遺跡	今福　門畑　647		
94	皆合鍛冶屋跡	製鉄遺跡	今福　菰ガセ　1606		
95	田代鈩跡	製鉄遺跡	今福　新宅　624		
96	菰ガセⅡ鈩跡	製鉄遺跡	今福　菰ガセ　1606-9		
97	菰ガセⅠ鈩跡	製鉄遺跡	今福　菰ガセ　1606-9		
98	小松原山砦跡	城跡	今福　小松原山　1588-3		
99	岩塚Ⅰ遺跡	散布地	今福　八ツ割　268-2		
100	岩塚Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	今福　宮ノ向イ　1451		
101	岩塚Ⅱ遺跡	散布地	今福　蔵ノ脇　253-1		発掘調査
102	岩塚Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	今福　鈩原　158		
103	久佐代官所跡	役所跡	久佐　役所畑　イ 1124	明治 5 年の地震により倒壊、近隣の隆興寺に代官の墓	
104	白甲Ⅲ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　鈩　ロ 60		
105	白甲ⅠⅤ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　松尾谷　ロ 379		
106	白甲Ⅴ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　松尾谷　ロ 379		
107	白甲Ⅵ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　松尾谷　ロ 379		
108	白甲Ⅶ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　松尾谷　ロ 379		
109	金光寺跡	寺院跡	久佐　寺田　ロ 115		
110	白甲Ⅷ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　白甲　ロ 76		
111	白甲Ⅸ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　白甲　ロ 76		
112	白甲Ⅹ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　白甲　ロ 76		
113	白甲ⅩⅠ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　白甲　ロ 76		
114	猿押鈩跡	製鉄遺跡	久佐　猿押奥　ロ 369		
115	ナメラ鈩跡	製鉄遺跡	久佐　ナメラセト　イ 1213		
116	長谷鈩跡	製鉄遺跡	久佐　吹屋床　イ 261		
117	虚空蔵	寺院跡	下来原　庵屋敷　549	約 100㎡の平地	
118	金田鈩跡	製鉄遺跡	下来原　中屋敷上　555-3		
119	金田庄屋跡	屋敷跡	下来原　土居　584-1	石垣、庭園、池、屋敷跡	
120	吉留鍛冶屋跡	製鉄遺跡	下来原　加藤太夫　1344		
121	吉留寺跡	寺院跡	下来原　薬師堂　474 続 1	三段構造、三段目に井戸	
122	戈ヶ迫鈩跡	製鉄遺跡	下来原　鈩ヶ塩　1327		
123	金屋平鍛冶屋跡	製鉄遺跡	下来原　金屋平　1366		
124	茶園ヶ浴鉄穴跡	製鉄遺跡	下来原　茶園ヶ埼　1288-1	鉄穴水路跡、鉄穴湿	
125	吉留砦跡	城跡	下来原　古城ヶ埼　1364-1	二段の堀切、古井戸	
126	二反田経塚	経塚	上来原　二反田下山後平　985	川石山積み	
127	大谷鍛冶屋跡	製鉄遺跡	上来原　松ヶ塩　650 内 3		
128	唐谷鍛冶屋跡	製鉄遺跡	七条　唐谷　ハ 35		
129	伊木鈩跡	製鉄遺跡	七条　七条鈩　ロ 108		
130	角屋鈩跡	製鉄遺跡	七条　洗場　イ 776	水溜用の堤防、用水路 4km	
131	於局給	屋敷跡	七条　於局給　イ 139	石垣、建物のカズラ石、庭園	
132	山根谷鈩跡	製鉄遺跡	七条　トイシケ原　イ 785-1		消滅
133	吉ヶ原鈩跡	製鉄遺跡	七条　籠院ヶ谷　イ 799-6		
134	上の谷鈩跡	製鉄遺跡	七条　上ノ埼　イ 284		
135	木原谷鉄穴跡	製鉄遺跡	上来原　奥田ヤ　793-1		
136	東鍛冶屋跡	製鉄遺跡	上来原　塩山　903		
137	大利鈩跡	製鉄遺跡	小国　大折奥平　イ 859-12		
138	長沢鈩跡	製鉄遺跡	小国　川平　イ 640		
139	堂屋敷鈩跡	製鉄遺跡	小国　堂屋敷　イ 855		
140	正念寺跡	寺院跡	小国　古屋敷　イ 905-1		
141	暮ヶ谷鈩跡	製鉄遺跡	小国　暮ヶ谷　イ 12		
142	久佐谷鈩跡	製鉄遺跡	小国　久佐谷　イ 2		
143	徳田経塚	経塚	小国　京塚　ロ 323		
144	桃源寺跡	寺院跡	小国　前屋敷　ロ 305-5		
145	猿木Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	小国　猿木　ハ 169	金池	
146	猿木Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	小国　猿木　ハ 168	金池	
147	沢津Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	追原		
148	雲月峠古戦場跡	その他	小国　雲月　ハ 392		
149	深笹Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鈩子　イ 11		
150	深笹Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　釜ヶ原　イ 44		
151	深笹鍛冶屋跡	製鉄遺跡	小国　片ヶ原　イ 703		
152	夏焼鈩跡	製鉄遺跡	小国　夏焼		
153	藤尾鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鈩ヶ谷　イ 1133		
154	不来ヶ原処刑場跡	その他	波佐　不来原　イ 270		
155	善長寺跡	寺院跡	波佐　寺床　イ 299	五輪塔	
156	漆谷鉄穴跡	製鉄遺跡	波佐　鉄穴　イ 1164	鉄穴水路跡	
157	漆谷Ⅰ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鈩ノ塩　イ 331		
158	漆谷Ⅱ鈩跡	製鉄遺跡	波佐　矢倉町　イ 333		
159	夜無鈩跡	製鉄遺跡	波佐　夜無　イ 351		
160	地主鉄穴跡	製鉄遺跡	波佐　弐手背戸山 イ 1179	鉄穴水路跡	
161	大人遺跡	その他	波佐　石仏有ノ木谷菅沢　イ 1189	足形を刻した巨石	

162	アンの木鉄穴跡	製鉄遺跡	波佐　有ノ木谷菅沢 イ 1189-61		
163	鈩ヶ谷鈩跡	製鉄遺跡	波佐　鈩ヶ谷　イ 1133		
164	菅沢庄屋跡	屋敷跡	波佐　菅沢　イ 491		
165	アンの木前遺跡	散布地	波佐　有の木前ノ切　イ 507	須恵器	
166	波佐代官所跡	役所跡	波佐　恵喜多　イ 5	元和 3 年開設、天明 8 年廃絶	
167	常磐山の的場	その他	波佐　常盤山　イ 1195	28 mの矢道、あずち	
168	千代帽子遺跡	その他	波佐　千代帽子　イ 555	波佐常磐山宮の御神幸、御旅所跡	
169	剣の墓	古墓	波佐　王子ノロ　イ 1261	波佐合戦の戦死者の遺品を納めた墓	
170	千人塚	古墓	波佐　谷川　イ 664	波佐合戦の戦死者を納葬	
171	釜町鈩跡	製鉄遺跡	波佐　釜町　イ 678-2		
172	八幡岩遺跡	その他	長田　八幡岩藪　ロ 260	巨石集石群	発掘調査
173	表谷鈩跡	製鉄遺跡	長田　カジヤ床　ロ 86		
174	恵日山本覚寺跡	寺院跡	長田　上引寺　ロ 58		
175	城ノ前遺跡	散布地	長田　城ノ前　ロ 101 他	土師器、須恵器、青磁	N 77 長田郷遺跡と同じ
176	田屋庄屋跡	屋敷跡	長田　田屋　ロ 228		
177	堂ヶ原鈩跡	製鉄遺跡	長田　堂ヶ原　イ 42	宝暦 12 年開設	
178	正古庵跡	寺院跡	長田　正古庵　イ 60		消滅
179	正古庵鉄穴跡	製鉄遺跡	長田　鉄穴堀　イ 395	鉄穴水路跡	
180	長田城跡	城跡	長田　岡　イ 69		解ヶ迫城跡、岡城跡
181	ダアダラ鈩跡	製鉄遺跡	長田　鈩町　イ 106		
182	傍示西平土塁	その他	長田　傍示西平　イ 467		
183	吹ヶ迫鈩跡	製鉄遺跡	長田　吹ヶ迫　イ 263		
184	寺田庵跡	寺院跡	長田　寺田　イ 270		
185	中曽根東平窯跡	窯跡	長田　中曽根東平	赤瓦片、台、染付陶器片	N 76 千年比丘窯跡と同一か
186	千年比丘古墳群	古墳	長田　中山	円墳、前期古墳	発掘調査
187	黒瀬Ⅰ遺跡	散布地	波佐	土師器	
188	馬場遺跡	散布地	波佐	須恵器、土師器	
189	草ノ城跡	城跡	今福	郭、腰郭	
190	遠見城跡	城跡	久佐	郭、腰郭、土塁、堀切	M 128 と同じ
191	雲井城跡	城跡	丸原	山城、郭、腰郭、土塁、石垣	丸原城跡、M 11 と同じ
192	七渡瀬Ⅱ遺跡	集落跡	波佐	縄文土器、弥生土器、住居址、石垣等	発掘調査
193	浜田広島街道	街道跡		近世街道跡	
194	津和野奥筋往還	街道跡		近世街道跡	N71 笠松峠の畳石路は脇道の一部
195	鹿森窯跡	窯跡	上久佐	瓦窯跡・13 間・赤瓦	
196	岡本窯跡	窯跡	七条	瓦窯跡・12 間・赤瓦・昭和 45 年頃廃絶	
197	くぼき窯跡	窯跡	下来原	瓦窯跡・赤瓦	
198	縄ナイ谷窯跡	窯跡	下来原	瓦窯跡・明治	N 80 今浦窯へ移転
199	案床畑遺跡		今福	焼土	発掘調査・消滅
200	オイト谷遺跡		今福	土坑	発掘調査・消滅

主要参考文献

藤岡大拙他編 1980『日本城郭大系』第 14 巻　鳥取・島根・山口　新人物往来社

山陰中央新報社 1981『島根県大百科事典』上巻・下巻

金城町教育委員会 1983『金城町の文化財第 1 集―町内の古墳―』

島根県教育委員会 1985『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

日本道路公団広島建設局・島根県教育委員会　1985『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』

金城町教育委員会 1986『島根県那賀郡金城町遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ　―波佐・長田地区―』

島根県教育委員会 1986『島根県生産遺跡分布調査報告書』

島根県教育委員会 1987『島根県製鉄遺跡分布調査報告書』

金城町教育委員会 1987『島根県那賀郡金城町遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』

金城町教育委員会 1987『七渡瀬遺跡発掘調査報告書』

金城町教育委員会 1989『八幡岩遺跡』

寺井毅 1991「石見福屋氏の桜尾城・松山城・波佐一本松城跡の畝状竪堀群についての考察」『島根考古学会誌』第 8 集　島根考古学会

金城町教育委員会編 1993『金城町の巨樹 50 選』

金城町教育委員会編 1994『波佐《島根県那賀郡金城町波佐地区における考古学的調査》』

島根県教育委員会 1997『島根県中近世城館分布調査報告書 < 第 1 集 > 石見の城館跡』

波佐文化協会 1998『金城の風土記』

島根県教育委員会 1998『歴史の道調査報告書　津和野廿日市街道・津和野奥筋往還』島根県歴史の道調査報告書第六集

島根県教育委員会 1999『歴史の道調査報告書　浜田広島街道・浜田三次往還』島根県歴史の道調査報告書第九集

島根県教育委員会 2002『島根県遺跡地図Ⅱ（石見編）』

金城町 2003『金城町誌』第 6 巻

樹林舎 2006『定本　島根県の歴史街道』

樹林舎 2006『島根県歴史街道地図』

浜田市教育委員会 2008『史跡 周布古墳・蔵地宅後古墳・市史跡 金田 1 号墳』

浜田市教育委員会 2008『唐谷坂道』

浜田市内指定文化財一覧（地図番号は浜田・金城自治区）

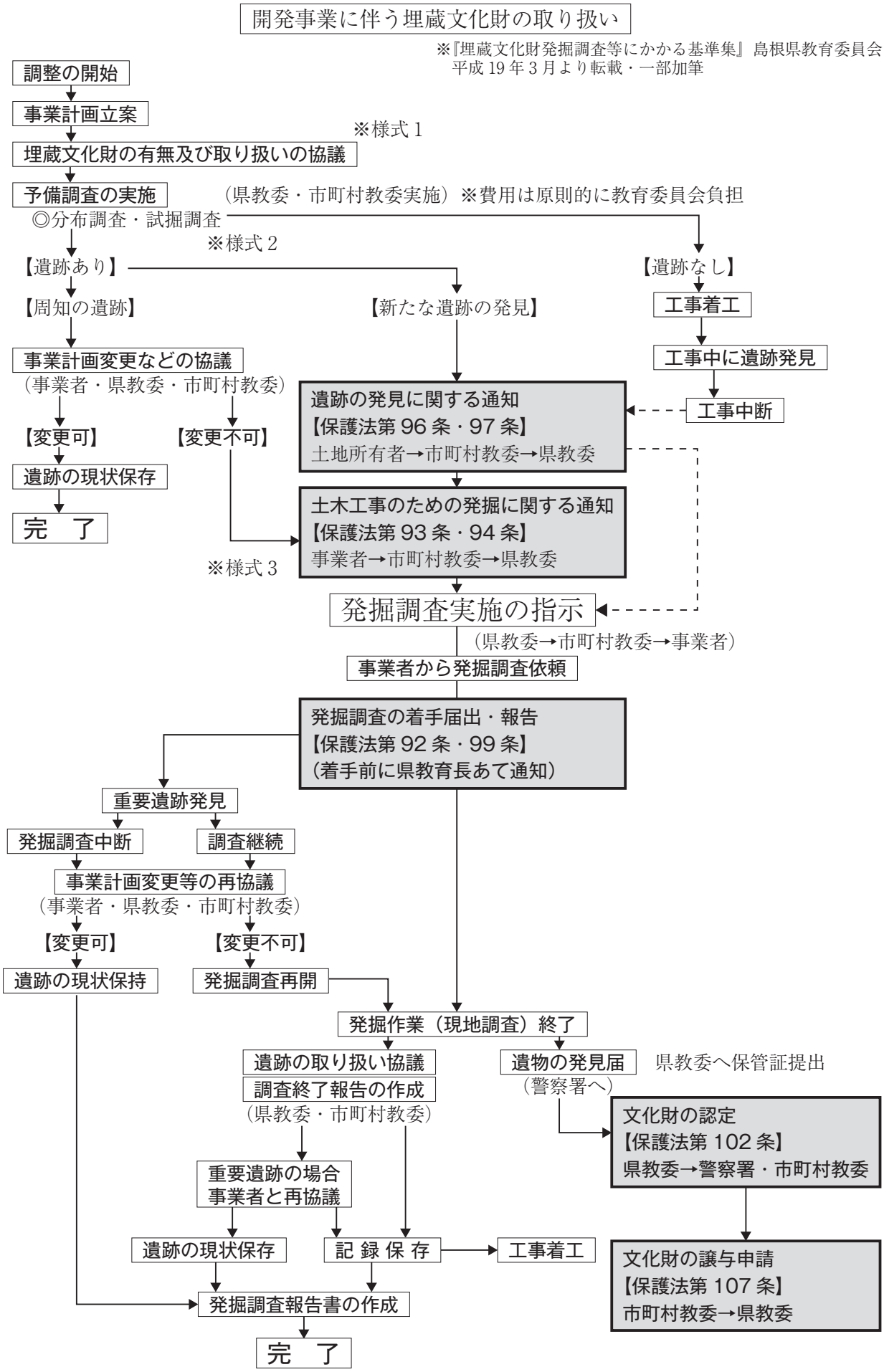
地図番号	遺跡番号	番号	区　分	指定年月日	名　称	所　在　地	所有者・保持者
【国指定文化財】							
		1	彫刻	大 9. 4.15	木造阿弥陀如来立像	松原町	心覚院
		2	工芸技術	昭 44. 4.15	石州半紙	三隅町古市場	石州半紙技術者会
		3	有形民俗文化財	昭 46.12.15	波佐の山村生産用具	金城町波佐	西中国山地民具を守る会
国史 1	L6	4	史跡	大 10. 3. 3	石見国分寺跡	国分町 402-4（道）, 1524-1, 1526,1527,1527 続 1,1528-1,1528-2, 1528-4,1530,1531,1534-1,1534-2,1548-1,	金蔵寺
国史 2	L49	5	史跡	昭 11.12.16	周布古墳	治和町ロ 1009-1	個人
国史 3	L13	6	史跡	昭 12. 6.15	下府廃寺塔跡	下府町 632-4	浜田市
国天 1		7	天然記念物	昭 7. 3.25	石見畳ヶ浦	国分町 1187-1,1979-1, 1982-1, 1982-2,1983,1984, 1985-1,1985-2, 1986,1987,1988, 1989-1,1989-2,1989-3, 1989-4,2207-1,2207-2,2208, 2209-1, 2209-2,2209-3, 2209-4,2210-1,2210-2, 2210-3,2210-4,210-5,2210-6,2210-7, 2210-8,2210-9,2210-10,2210-11, 2210-12,2210-13	国・市・民
		8	天然記念物	昭 10. 4.11	三隅大平桜	三隅町矢原	個人
【島根県指定文化財】							
		9	絵画	昭 47. 7.28	絵本墨画淡彩大麻山縁起	三隅町室谷	大麻山神社
		10	彫刻	昭 37. 6.12	木造雨宝童子立像	三隅町三隅	正法寺
		11	彫刻	昭 42. 5.30	木造天部像群	生湯町	多陀寺
		12	彫刻	昭 43. 6. 7	木造薬師如来坐像	三隅町三隅	正法寺
		13	書跡	昭 37. 6.12	紙本墨書大般若経	三隅町芦谷	龍雲寺
		14	古文書	平 12. 3.28	紙本著色石見国絵図	黒川町　浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		15	考古資料	昭 35. 9.30	めんぐろ古墳出土品	治和町	個人
		16	有形民俗文化財	昭 47. 7.28	波佐の山村生活用具	金城町波佐	西中国山地民具を守る会
		17	無形民俗文化財	昭 37. 6.12	井野神楽	三隅町井野	井野神楽保持者会
		18	無形民俗文化財	昭 39. 5.26	有福神楽	下有福町	有福神楽保持者会
		19	無形民俗文化財	昭 40. 4. 1	黒沢囃子田	三隅町黒沢	黒沢囃子田保存会
県史 1	L7	20	史跡	昭 33. 8. 1	石見国分尼寺跡	国分町 216,217,225-5,1898-1,1898-2, 1898-3	国分寺
県史 2	L27	21	史跡	昭 37. 6.12	浜田城跡	殿町 123-1,123-6,123-10,131-1,131-4	浜田市
県史 3	L5	22	史跡	昭 42. 5.30	石見国分寺瓦窯跡	国分町 408-1	浜田市
県天 1		23	天然記念物	昭 41. 5.31	黄長石霞石玄武岩	長浜町 276-1	個人
						熱田町 1319-1	個人
						内田町 625 内 1	個人
県天 2		24	天然記念物	昭 47. 3.31	常盤山の杉	金城町波佐	八幡宮（波佐常盤山八幡宮）
		25	天然記念物	昭 47. 3.31	長安本郷の八幡宮並木杉	弥栄町長安本郷	八幡宮（長安八幡宮）
【浜田市指定文化財】							
		26	絵画	昭 44.11. 3	板絵著色瀬戸ヶ島捕鯨図	瀬戸ヶ島町	厳島神社
		27	絵画	昭 48. 5. 1	絹本著色石門源義頂相	清水町	洞泉寺
		28	絵画	昭 48. 5. 1	絹本著色仏涅槃図	周布町	浄琳寺
		29	絵画	昭 48. 5. 1	「無題」森脇 忠筆油絵麻布	黒川町	浜田高等学校同窓会
		30	絵画	昭 48. 5. 1	「無題」小林萬吾筆油絵麻布	野原町　浜田市世界こども美術館	浜田市
		31	絵画	昭 56. 3.28	伝空海筆十三佛画幅	三隅町芦谷	龍雲寺
		32	絵画	平 14. 2.22	紙本著色仏涅槃図	田町	龍泉寺
		33	絵画	平 14. 2.22	船絵馬	瀬戸ヶ島町	厳島神社
		34	彫刻	昭 51. 3.25	木造北白川宮能久親王殿下立像	黒川町　浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		35	彫刻	平 7. 3.28	木造阿弥陀如来坐像	三隅町芦谷	龍雲寺
		36	彫刻	平 7. 3.28	木造阿弥陀如来立像	三隅町湊浦	極楽寺
		37	工芸品	昭 44.11. 3	脇差	久代町	石見安達美術館
		38	工芸品	昭 44.11. 3	太刀	久代町	石見安達美術館
		39	工芸品	昭 48. 5. 1	太刀	殿町	浜田護国神社
		40	工芸品	昭 51. 3.25	刀　4 口	久代町	石見安達美術館
		41	工芸品	昭 56. 3.28	古和三尊仏	三隅町上古和	個人
		42	工芸品	平 14. 2.22	和船模型	瀬戸ヶ島町	厳島神社
		43	工芸品	平 14. 2.22	錆朱塗横矧菱綴二枚胴具足廻鉢兜付	野原町　浜田市世界こども美術館	浜田市
		44	書跡	昭 48. 5. 1	紙本墨書大般若経	大辻町	宝福寺
		45	書跡	昭 56. 3.28	紺紙金泥金剛経	三隅町芦谷	龍雲寺
		46	典籍	昭 44.11. 3	紙本墨書藤井宗雄著書	治和町	個人
		47	古文書	昭 56. 3.28	送り場古文書	三隅町岡見	個人
		48	古文書	昭 56. 3.28	二宮神社古文書	三隅町三隅	二宮神社
		49	古文書	平 7. 3.28	諸国御客船帳	外ノ浦町	個人
		50	古文書	平 9. 7.11	石見国藩領絵図	高佐町	個人
		51	古文書	平 9. 7.11	浜田城下町鳥瞰絵図	高佐町	個人
		52	古文書	平 9. 7.11	浜田城下町方絵図	蛭子町	個人
		53	古文書	平 9. 7.11	自唐鐘浦至長浜浦海岸絵図	外ノ浦町	個人
		54	古文書	平 14. 2.22	諸国御客船帳	外ノ浦町	個人
		55	古文書	平 14. 2.22	紙本墨書神楽台本	周布町	個人
		56	考古資料	昭 58.12.26	金田 1 号墳出土品	金城町　浜田市金城歴史民俗資料館	浜田市
		57	考古資料	平 7. 3.28	鰐石遺跡出土品	浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		58	考古資料	平 7. 3.28	銅造誕生釈迦仏立像	浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		59	歴史資料	平 9. 7.11	石見国天保国絵図懸紙改切絵図	浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		60	有形民俗文化財	昭 48. 5. 1	獅子頭	片庭町	個人
		61	有形民俗文化財	昭 48. 5. 1	獅子頭	日脚町	天上岡八幡宮

		62	有形民俗文化財	平 14. 2.22	神楽木彫面	下有福町	有福神楽保持者会
						上府町	石見神代神楽上府社中
						佐野町	石見神楽佐野神楽社中
						長浜町	石見神楽長浜社中
						日脚町	日脚神代神楽社中
						内村町	個人
						田橋町	石見神楽美川西神楽保存会
						鍋石町	鍋石神楽社中
市史 1	L10	63	史跡	昭 44.11. 3	片山古墳	下府町 1930	個人
市史 2	L43	64	史跡	昭 44.11. 3	鳶巣城跡	周布町ロ 527,527 内 1,537-1,537-2,538,538 内 1	個人
						周布町ロ 92 続 1,92-3,528,529,531,532,533,536,536 内 1,537 内 1,537-3,537-4,537-5,537-6	個人
市史 3		65	史跡	昭 51. 3.25	東海篠先生之墓	真光町 63	観音寺
市史 4	L26	66	史跡	昭 51. 3.25	日和山方角石	外ノ浦町 1489-2	浜田市
	O74	67	史跡	昭 56. 3.28	正法寺奥の院	三隅町三隅	正法寺
		68	史跡	昭 56. 3.28	笠取りの墓	三隅町黒沢	個人
		69	史跡	昭 56. 3.28	大麻山神社道中石	三隅町東平原、三隅町室谷	個人
	O75	70	史跡	昭 56. 3.28	成田郷三角田記念碑	三隅町三隅	浜田市
	O20	71	史跡	昭 56. 3.28	寺尾用水隧道	三隅町井川	個人
	O77	72	史跡	昭 56. 3.28	廓英法師墓	三隅町三隅	個人
市史 6	N5-1	73	史跡	昭 58.12.26	金田 1 号噴	金城町下来原 1334-3	個人
市史 7	N71	74	史跡	昭 58.12.26	笠松峠の石畳路	金城町波佐	個人
市史 8	N8	75	史跡	昭 62.12.18	波佐一本松城跡及び関連施設	金城町波佐	個人
							大歳神社
市史 5	L22	76	史跡	平 14. 2.22	上条遺跡（城山銅鐸出土地）	上府町ィ 2214-5	個人
浜天 1		77	天然記念物	昭 44.11. 3	ビロードシダ及び群生地	河内町	個人
							個人
浜天 2		78	天然記念物	昭 44.11. 3	多陀寺のクスノキ	生湯町 1767	多陀寺
浜天 3		79	天然記念物	昭 44.11. 3	多陀寺のヒノキ	生湯町 1767	多陀寺
浜天 4		80	天然記念物	昭 48. 5. 1	多陀寺のシイ・タブ林	生湯町 1767	多陀寺
浜天 5		81	天然記念物	昭 48. 5. 1	伊甘神社のイチョウ	下府町 935-2	伊甘神社
浜天 6		82	天然記念物	昭 48. 5. 1	伊甘神社のムクノキ	下府町 935-2	伊甘神社
		83	天然記念物	平 5. 3.31	金城町の巨樹・銘木		
浜天 7-1					大久佐川のシキミ群生	金城町今福 1531	個人
浜天 7-2					大久佐川のネズミサシ	金城町今福 1531	個人
浜天 7-3					大久佐川のヒヨクシバ	金城町今福 406	個人
浜天 7-4					大久佐川のエノキ	金城町今福 415	個人
浜天 7-5					山藤のクロマツ	金城町今福 111	個人
浜天 7-6					下久佐のシキミ	金城町久佐イ 1024-4	個人
浜天 7-7					大鏡神社のスダジイ及びエノキ巨樹群	金城町久佐イ 1277	個人
浜天 7-8					新開のモッコク	金城町七条イ 1035	新開町内会
浜天 7-9					伊木八幡宮の大フジ	金城町七条ロ 415	伊木八幡宮
浜天 7-10					伊木八幡宮のイチイガシ	金城町七条ロ 415	伊木八幡宮
浜天 7-11					上来原大元社のタブなど巨樹群	金城町上来原 637-1	個人
浜天 7-12					大谷のヤマガキ	金城町上来原 628	個人
浜天 7-13					焼土峠のアベマキ	金城町上来原大草田	個人
浜天 7-14					光超寺の大イチョウ	金城町小国ハ 239-3	光超寺
浜天 7-15					不豆喰のヤブツバキ群及びケヤキ巨樹群	金城町波佐イ 1097-1,1097-3	個人
浜天 7-16 （指定解除）					菅沢の大モミ	金城町波佐イ 1190	個人・平 21.6.15 枯死のため指定解除
浜天 7-17					永昌寺の大スギ	金城町波佐イ 1192-1	永昌寺
浜天 7-18					千谷母屋の連理のモミジ	金城町波佐イ 1202	個人
浜天 7-19					長田郷の大エノキ	金城町長田イ 25	個人
浜天 7-20					東谷上の大ガシ	金城町長田イ 399-2	個人
浜天 7-21					浄蓮寺のハクモクレン	金城町長田イ 359-4	個人
浜天 7-22					若生のケヤキ巨樹群	金城町波佐イ 1310	個人
浜天 7-23					若生の大モミジ	金城町波佐イ 1351-2	個人
浜天 7-24					鍋滝のカツラ	金城町波佐イ 1319-41	個人
		84	天然記念物	平 7. 3.28	お葉付き銀杏	三隅町井野	個人
		85	天然記念物	平 17. 9.22	佐々木桜	三隅町三隅	個人
		86	天然記念物	平 17. 9.22	海老谷桜	三隅町向野田	個人

【登録文化財】

国登 1		87		平 9. 5. 7	浜田市立第一中学校屋内運動場 （旧歩兵第二十一連隊雨覆練兵場）	黒川町 3745	浜田市
国登 2		88		平 9. 5. 7	島根県立浜田高等学校第二体育館 （旧歩兵第二十一連隊雨覆練兵場）	黒川町 3749	島根県

第3章　埋蔵文化財の事務手続きフロー



※様式１

第　　号
平成　年　月　日

浜田市教育委員会教育長　様

住所
氏名　　㊞
（担当者）

文化財等の有無及び取扱いについて（協議）

このたび下記のとおり開発工事を計画していますので、文化財等の有無及び取扱いについて協議します。
また、計画地立ち入りと予備調査（現地確認等）の協力に同意します。

１　開発事業名

２　開発計画場所

３　施行面積（㎡）

４　開発予定時期

５　その他（回答希望時期など）

添付書類
◎位置図（1/25,000）・計画図（工事図面、地籍図など）

※様式２

平成　年　月　日

浜田市教育委員会教育長　様

土地所有者
住所

氏名　　㊞

発掘調査承諾書

浜田市が実施する埋蔵文化財調査について、下記のとおり承諾します。

記

１，調査場所　浜田市　　番地

２，調査期間　平成　年　月　日～平成　年　月　日

３，その他　埋蔵文化財に関する権利を放棄し、浜田市教育委員会に一任する。

※様式３

第2号様式

第　　号

年　　月　　日

島根県教育委員会教育長　様

住　所

氏名等　　印

埋蔵文化財発掘の〔届出・通知〕について

周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事等のための発掘を実施したいので、文化財保護法（昭和25年法律第214号）〔第93条第１項・第94条第１項〕、第184条第１項及び文化財保護法施行令（昭和50年政令第267号）第５条の規定により、下記の事項について、関係書類を添付し、別記のとおり〔届出・通知〕します。

記

１．土木工事等をしようとする土地の所在及び地番
２．土木工事等をしようとする土地の面積
３．土木工事等をしようとする土地の所有者の氏名又は名称及び住所
４．土木工事等をしようとする土地に係る遺跡の種類、員数及び名称並びに現状
５．当該土木工事等の目的、計画及び方法の概要
６．当該土木工事等の主体となる者（当該土木工事等が請負契約等によりなされるときは、契約の両当事者）の氏名及び住所（法人その他の団体の場合は、その名称及び代表者の氏名並びに事務所の所在地）
７．当該土木工事等の施工担当責任者の氏名及び住所
８．当該土木工事等の着手の予定時期
９．当該土木工事等の終了の予定時期
１０．その他参考となるべき事項

【添付書類】

土木工事等をしようとする土地及びその付近の地図並びに当該土木工事等の概要を示す書類及び図面

※様式４

別　記

93条第１項・ 94条第１項　（○で囲むこと）

県文書番号	第　　号・　　年　　月　　日

１．所　在　地			
２．面　　積	㎡		
３．土地所有者	住　所：		
	氏名等：		
４．遺跡の種類	散布地　集落跡　貝塚　官衙跡　城館跡　社寺跡　古墳 横穴墓　その他の墓　生産遺跡　その他の遺跡（　　）		
遺跡の名称	（県遺跡番号　　）	員　数	
遺跡の現状	宅地 水田 畑地 山林 道路 荒蕪地 原野 その他（　　）		
遺跡の時代	旧石器 縄文 弥生 古墳 奈良 平安 中世 近世 その他（　　）		
５．工事の目的	道路　鉄道　空港 河川 港湾　ダム 学校建設　集合住宅　個人住宅 工場　店舗　個人住宅兼工場又は店舗　その他建物（　　） 宅地造成　土地区画整理　公園造成　ゴルフ場　観光開発 ガス・電気・水道等　農業基盤整備事業（農道等を含む） その他の農業関係事業　土砂採取　その他開発(　　)		
工事の概要			
６．工事主体者	住　所：		
	氏名等：		
７．施行責任者	住　所：		
	氏名等：		
８．着手予定時期	年　月　日	９．終了予定時期	年　月　日
10．参考事項			

指　導　事　項	発掘調査　工事立会　慎重工事　その他（　　）

［注意事項］ ①太線内は届出・通知者が記入。②指導事項欄は県教育委員会で記入。
③遺跡の種類・現状・時代及び工事の目的欄は該当項目を○で囲み、該当項目のない場合は（　）内に記入。

第４章　七渡瀬Ⅱ遺跡・長田地区の試掘確認調査

第１節　七渡瀬Ⅱ遺跡確認調査

浜田市金城町波佐の周布川と長田川の合流する地点の右岸段丘に位置する。これまで昭和 61 年に七渡瀬遺跡（七渡瀬Ⅰ遺跡）、平成３～５年と平成 20 年に七渡瀬Ⅱ遺跡の発掘調査が行なわれている（金城町教育委員会 1987・1994）。平成 20 年の調査は国道 186 号線の歩道工事の際、法面に黒色土の落ち込みが見られたため緊急に調査を実施したものである。

遺跡は２級河川周布川東側の河岸段丘上に位置し、縄文時代後期後半～弥生時代末・古墳時代前期の竪穴住居～古代・中世の柱穴群と継続する波佐・長田地区の中心的遺跡とされている。これまでは国道 186 号線の西側で遺構・遺物が確認されている。遺跡の範囲を確認するため、国道東側の休耕田と畑に調査区を 10 地点設定した。調査地点の番地は浜田市金城町波佐イ 441 － 3・イ 427 － 2・イ 426 － 4・イ 427 － 1 である。七渡瀬Ⅱ遺跡確認調査と長田地区試掘調査は平成 20 年 10 月 6 日～ 10 月 22 日まで実施した。

山側の最も高い歴史民俗資料館下の水田面の調査区

Ｔ１・Ｔ２・Ｔ８（1m × 5m・5㎡・現地表高 374.1m）

Ｔ１では現地表下約 20 ～ 30cm で洪水の可能性がある砂と粘土層を確認した。Ｔ１・Ｔ２・Ｔ８と上の水田で確認されている。詳細な時期は現段階では不明だが、昭和58年頃の水害では国道186線が浸かっており、一時的に洪水がきた可能性がある。砂の下では小礫混じりの暗灰褐色土・黒色土があり、弥生～中世・近現代の遺物・木質（杭など）が出土する。今回の調査で最も遺物が出土した調査区だが、遺物はいずれも細片である。地表下 0.5 ～ 1.1 m下・標高 373.5 ～ 373.0m で傾斜する硬質な角礫・小礫混じり暗灰色砂質土面を確認したが遺構は確認されなかった。

Ｔ２とＴ８の土層はＴ１と同様で、黒色土の下が黒色土混じりの角礫面になる。遺構は確認されなかった。遺物量はＴ１に比べ少ない。

水田下の畑面（旧道路？）の調査区

Ｔ３・Ｔ４・Ｔ９（2m × 3m・6㎡・現地表高 372.9m）

水田下の畑面は古い道の上を造成して畑を造ったと聞いていた。調査結果では最も南側のＴ３部分は大半が造成されて撹乱を受け、黒色土が帯状のブロックで混じっていた。北側のＴ４・Ｔ９では耕作土下でコンクリートを含む雑な硬質面と石列を確認し、路面と見られる。路面下も造成されていたが地表下約 0.15 ～ 0.7m で小礫を含む黒色土が確認された。黒色土は厚さ 15 ～ 30㎝あったが、遺物はほとんど確認できなかった。黒色土下の淡褐灰色土面で遺構は確認できなかった。淡褐灰色土面の下は砂礫層や砂層になる。

最も低い北側畑の調査区

Ｔ５～Ｔ７（2m × 3m・6㎡・現地表高 370.5 ～ 371.8m）

国道 186 号線東側の畑から南北方向に調査区を３地点設定したが、いずれも耕作土が約 15㎝ありその下で黄褐色土面が検出されたが、遺構と遺物は確認できなかった。この黄褐色土面はＴ 10 の遺構検出面にあたる。

Ｔ 10

国道と市道交差点の法面に露出していた遺物を含む黒色土の範囲を確認するために設定した。この黒色土は弥生時代～古墳時代の土器細片を含み、長さ 1.95m 以上・厚さ８～ 10㎝で帯状に見られる。竪穴住居跡の可能性もあり、範囲確認のため台形状の調査区を設定した。黒色土は当初の想定以上に南側へ曲がり、調査区隅で確認された。遺構の落込みは直線状になる。黒色土からは古墳時代頃の土師器甕などの破片が出土したが、いずれも図化できない細片である。

出土遺物

各調査区から出土した遺物の破片数は表１にまとめた。山側の最も高い歴史民俗資料館下の水田面の調査区（Ｔ１・Ｔ２・Ｔ８）とＴ10に遺物が多いが大半が図化しにくい細片である。破片では古墳時代頃の土師器片が最も多く、弥生土器や中世土師器がそれに次ぐ点数である。Ｔ１から古代の可能性のある瓦片が１点出土している。（第５図・1、2）はＴ１の表土付近から出土した。(1) は回転糸切り痕を残す底径5.6cmの中世土師器皿底部である。(2) は平瓦片で、凸面に一部格子状の叩き痕が残るが大半がナデにより不明瞭になる。凹面は細かな布目痕と直線的なヨコナデによる段がつき、瓦当部を接合した可能性もある。胎土は１～2mmの白色粒を多く含み、色調は外面が暗灰色、断面は暗紫色で全体に硬質である。（第６図・３～６）はＴ２の黒色土から出土した。(3・6) は弥生土器で (3) は甕の頸部で板状工具による斜めの刺突文が残り、後期頃と見られる。(6) はやや厚い壷甕類の底部で内面にケズリが見られ、後期初め頃とみられる。(4・5) は回転糸切り痕を残す底径8cm、4.8cmの中世土師器皿底部である。（第７図・7）はＴ９の黒色土から出土した。須恵器の頸部と見られ、焼成が悪く灰白色である。外面に浅くカキメ状の平行線が残る。

第２節　長田地区試掘調査

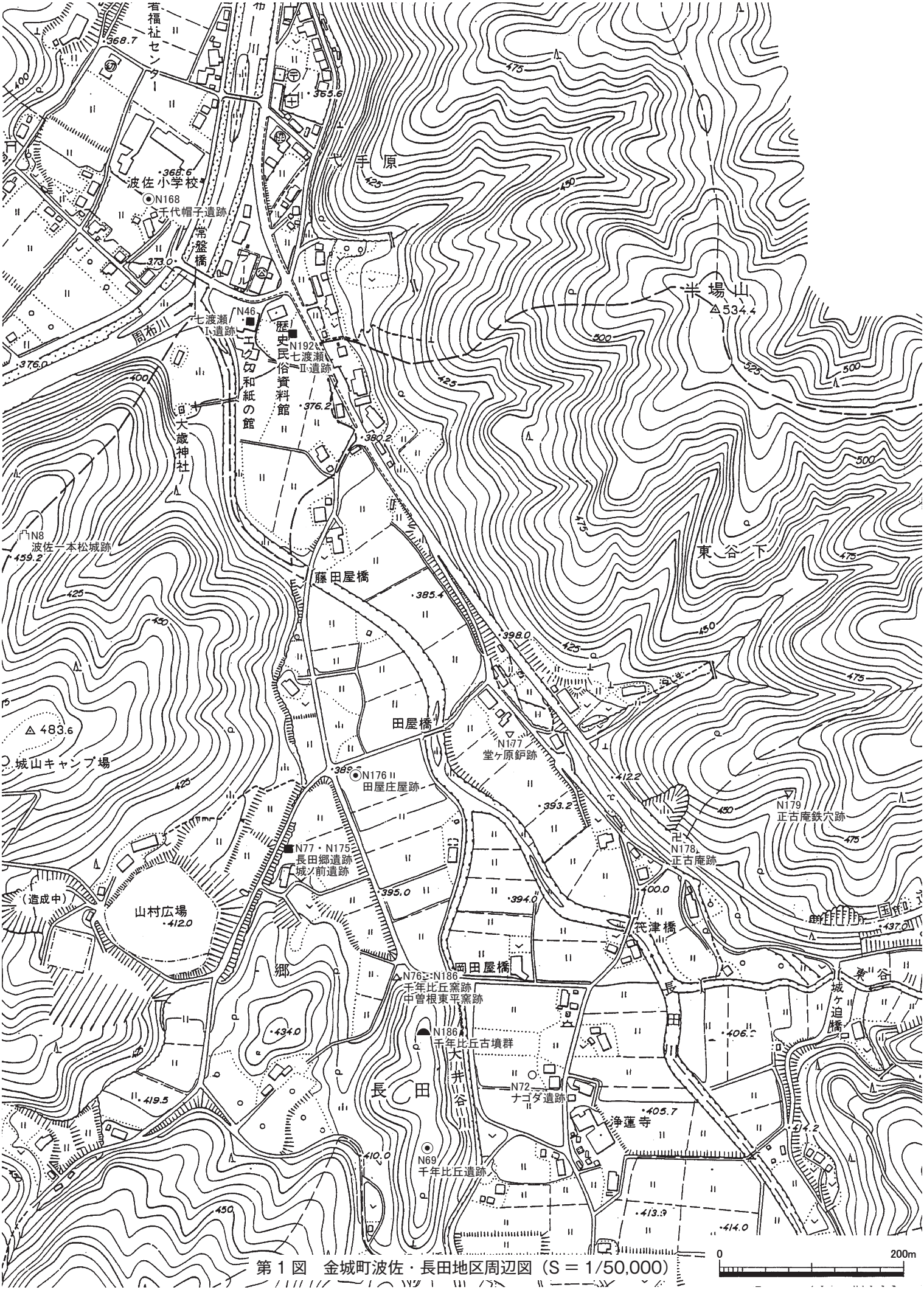
七渡瀬Ⅱ遺跡のある波佐地区よりさらに南、広島県境に接する長田地区には、長田郷遺跡（金城町教育委員会1986）・ナゴタ遺跡・千年比丘１号墳（金城町教育委員会編1994）・市指定史跡 波佐一本松城跡（金城町教育委員会1986）などが所在する。これらの遺跡は長田川の左岸と長田川の支流の大井谷川周辺に位置している。長田川右岸は現在国道186号線が走る山裾がせまっており、あまり平坦地はないが、状況確認のため東谷下の水田面に２地点（2m × 3m・Ｔ11・Ｔ12）の調査区を設定して調査を実施した。調査地周辺は「竹ノ河内」と呼ばれているようである。なお､山側にはかつて数件の家があったが、近年の土砂災害で倒壊したため移転している。調査地点の番地は浜田市金城町波佐イ457 － 4である。

Ｔ11（2m × 3m・6㎡・現地表高394.6m）

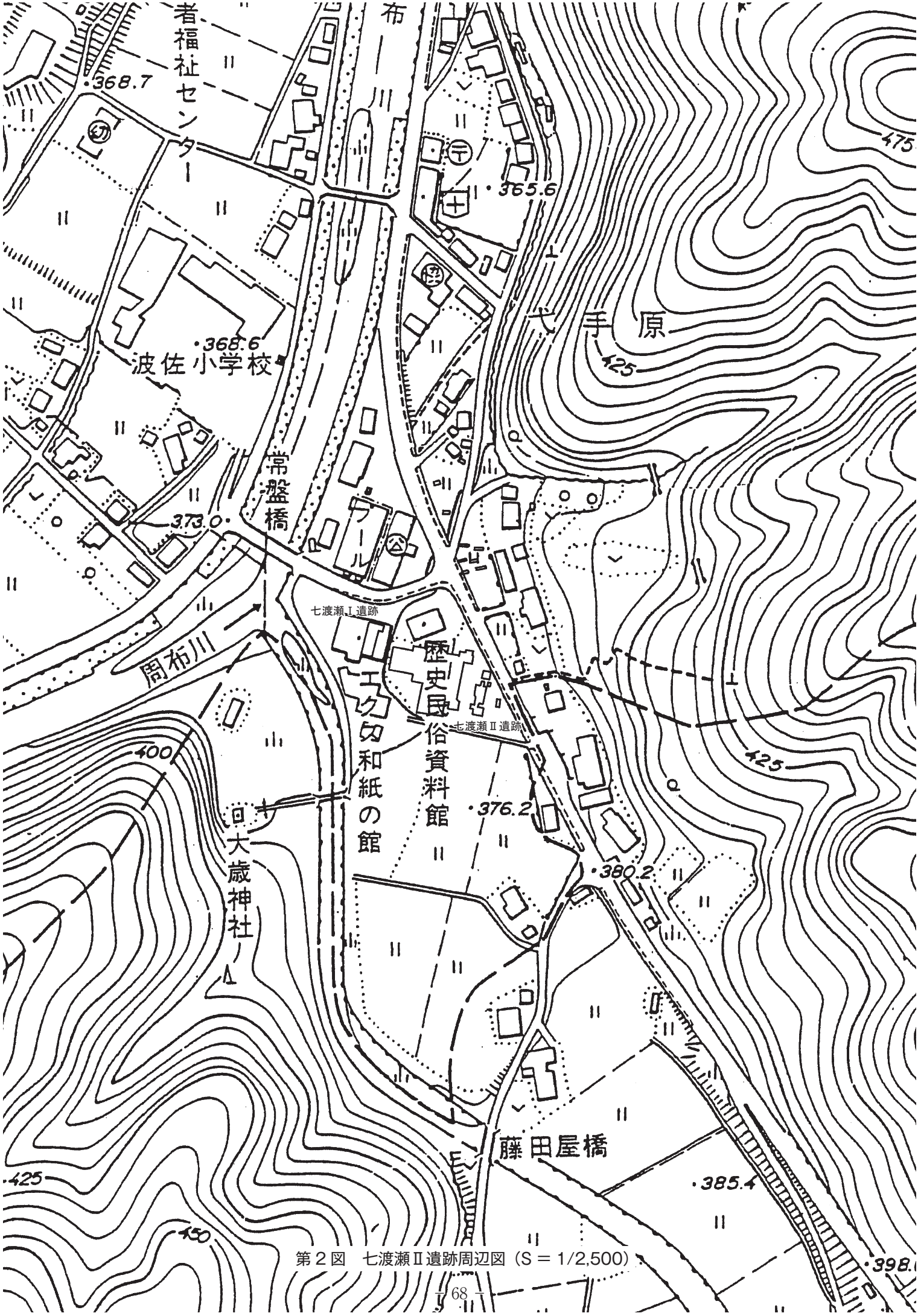
耕作土とその下のマンガン集積層が約50cmあり、大石が混じる暗灰褐色土が検出された。その下ではさらに大石が増えたため掘り下げることができなかった。大石が混じる暗灰褐色土は土石流の一部と見られるが、聞き取りでは近年の災害のものではないとのことである。以前から土砂災害を受けやすい場所と見られる。表土から近現代陶磁器が２点出土した。

Ｔ12（2m × 3m・6㎡・現地表高394.1m）

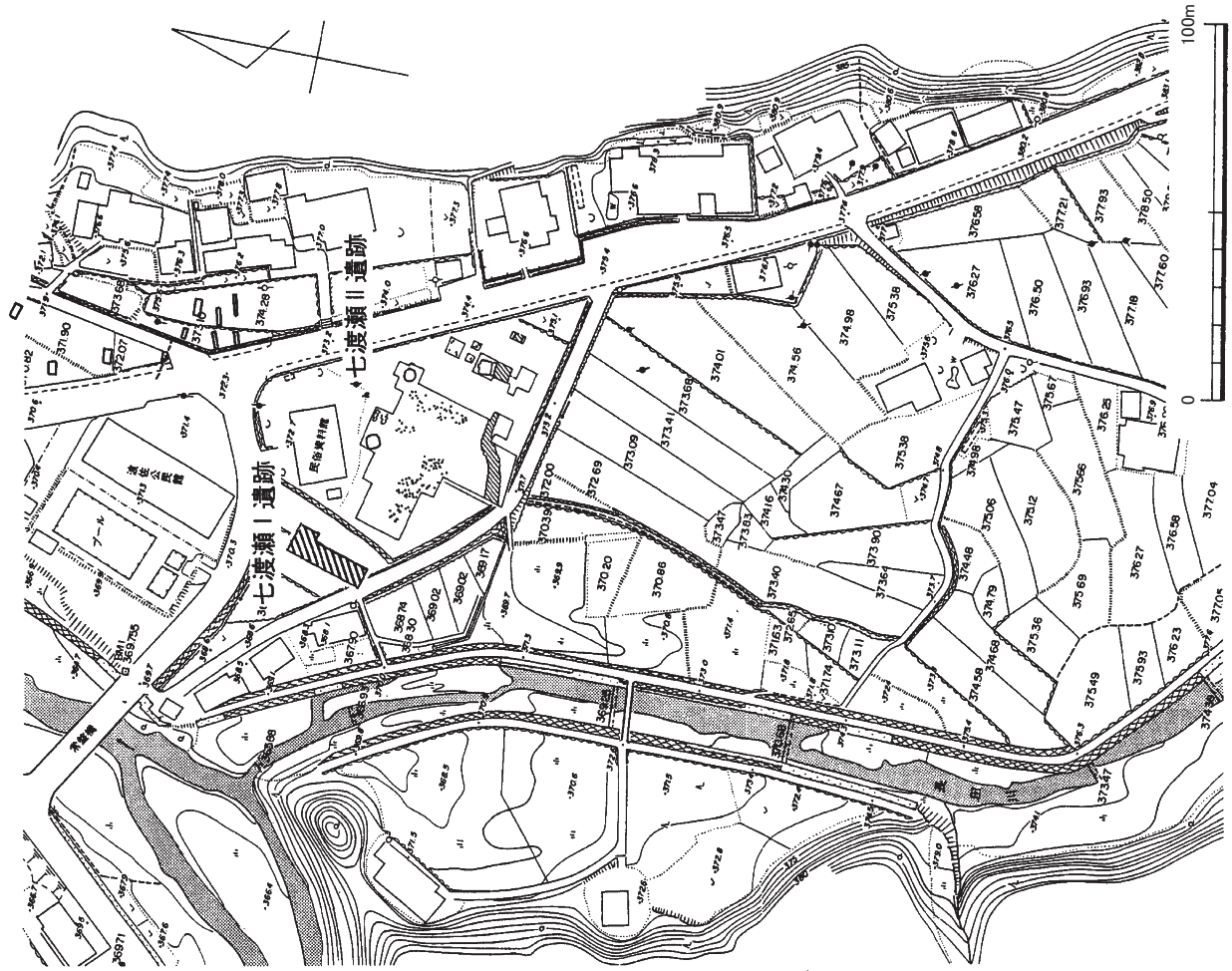
耕作土とその下のマンガン集積層が約55cmあり、角礫が混じる暗灰色砂礫層が検出された。その下では大石が多く、掘り下げることができなかった。角礫が混じる暗灰色砂礫層は長田川による河岸段丘形成層の一部と見られる。水害の痕跡はなかったが、おそらく川の影響を直接受ける河原であったと見られる。表土から近現代陶磁器が４点出土した。



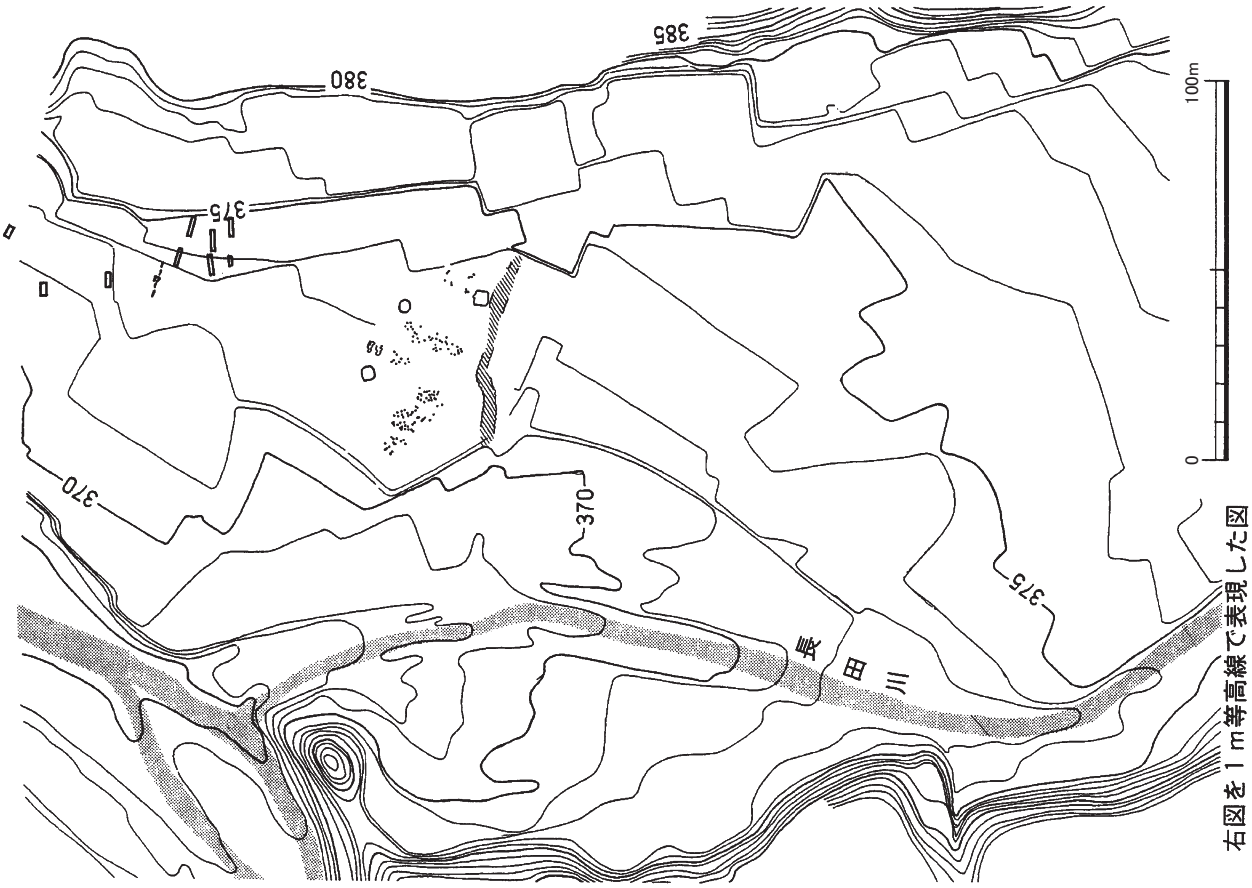
第１図　金城町波佐・長田地区周辺図（S＝1/50,000）



第２図　七渡瀬Ⅱ遺跡周辺図（S ＝ 1/2,500）



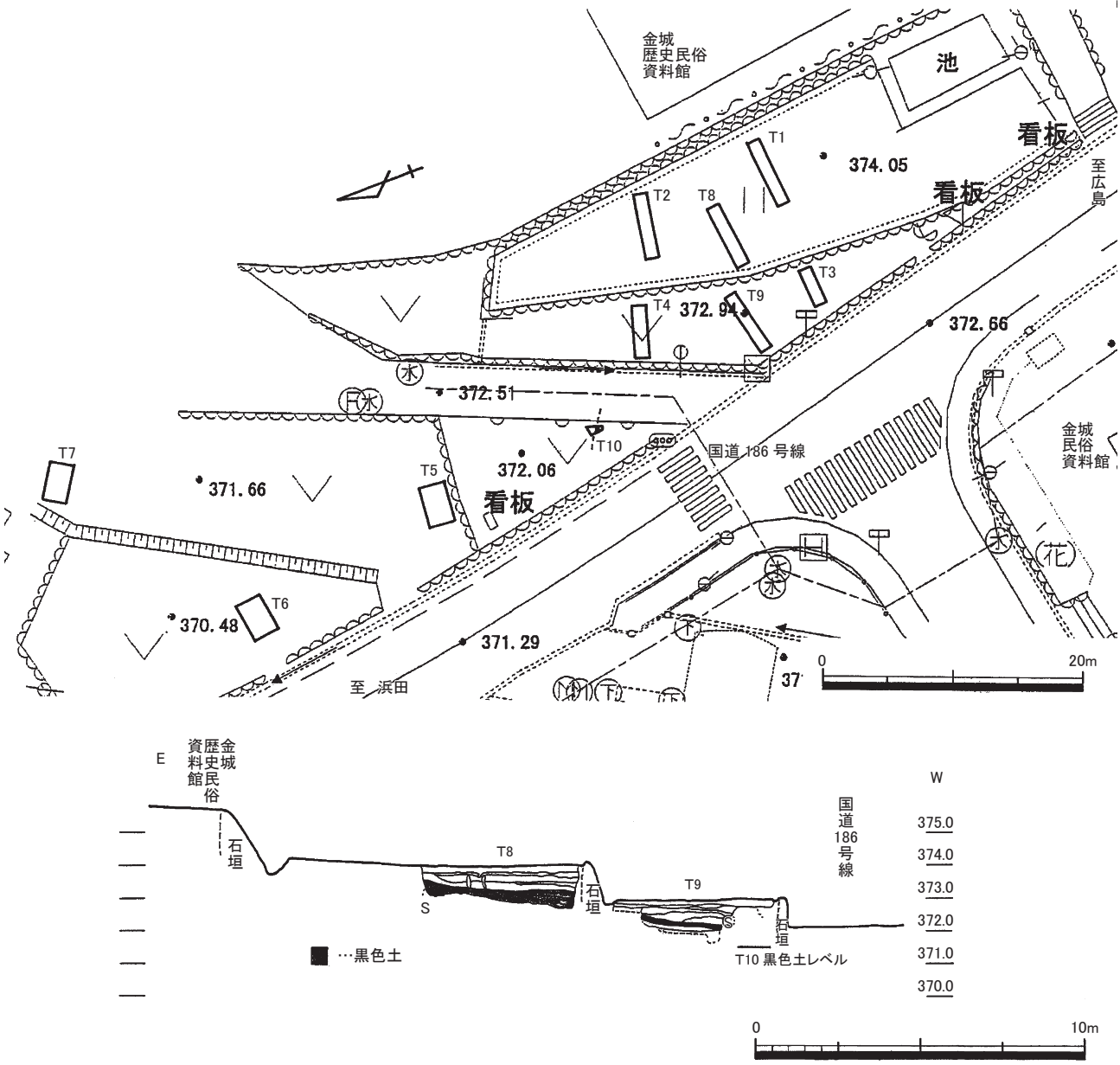
圃場整備前の地形図



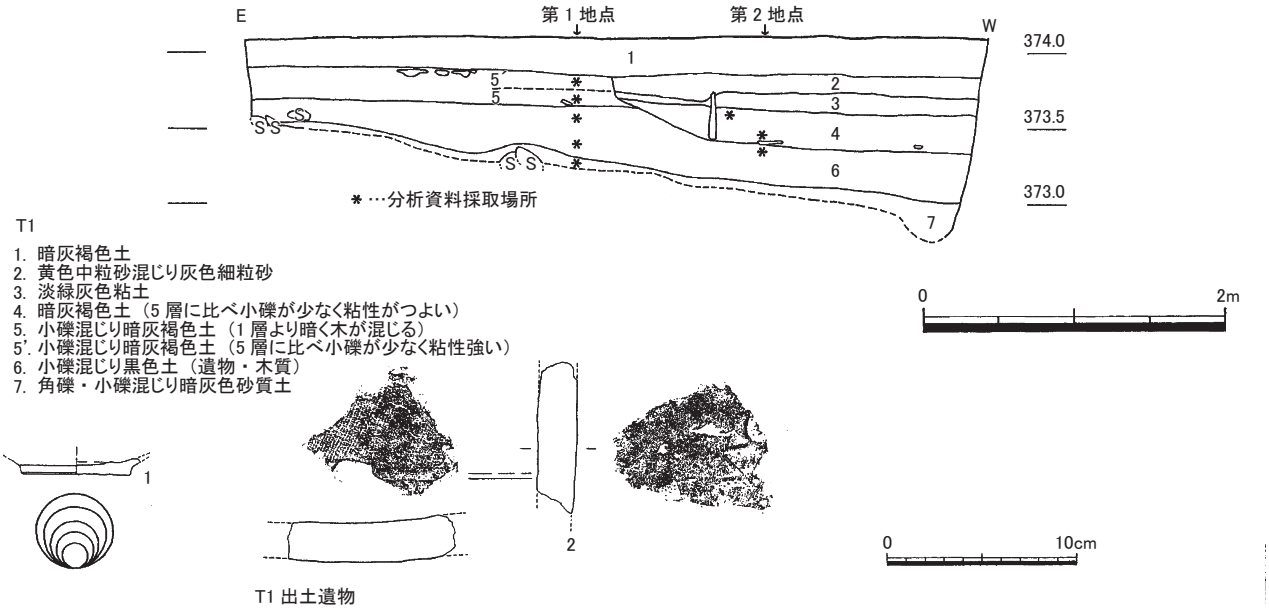
右図を１ｍ等高線で表現した図

第３図　七渡瀬Ⅱ遺跡と周辺の地形（圃場整備前）

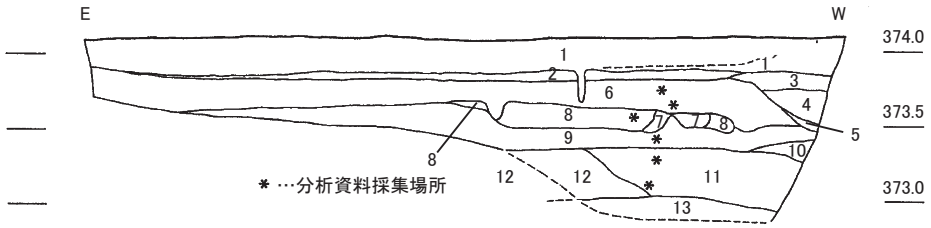
『波佐』1994　金城町教育委員会編より転載・一部加筆



第４図　七渡瀬Ⅱ遺跡　調査位置図



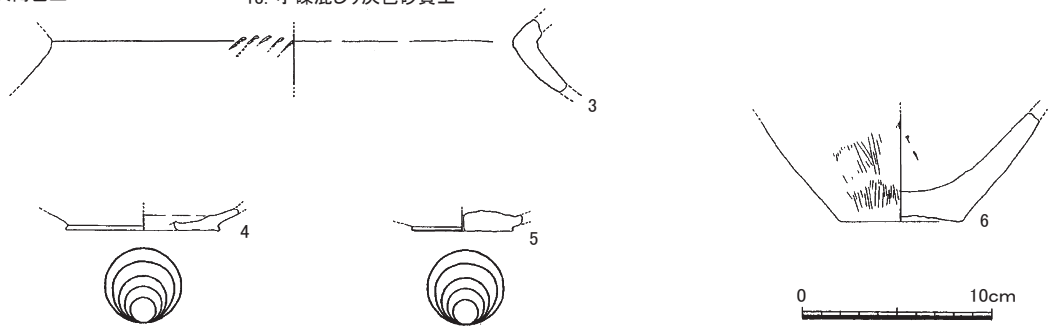
第５図　Ｔ１　実測図



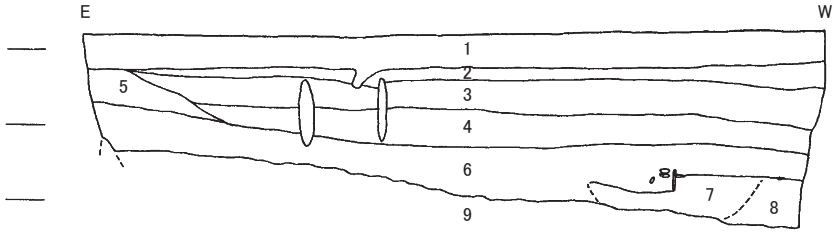
T2

1. 暗灰褐色土（耕作土）
1'. 暗灰褐色土（1層よりやや明るく砂混じり）
2. 暗灰褐色土・灰色粘土混じり黄色細粒砂
3. 黄色細粒砂
4. 黄味を帯びた灰色粘土
5. 暗褐灰色粘質土
6. 小礫混じり暗灰褐色土
7. 暗灰褐色土（ブロック？）
8. 小礫混じり暗灰褐色土
9. 小礫混じり黒色土（遺物少量）
10. 暗褐灰色粘質土
11. 中礫（10cm大）混じり黒色土（遺物・木質少量含む）
12. 黒色土混じり角礫（15cm大）層（11 層よりが大きい、同一系統の層）
13. 小礫混じり灰色砂質土

0 2m

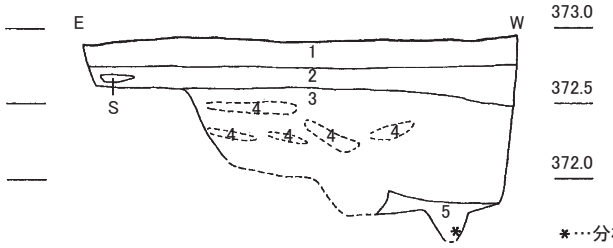


T2 出土遺物



T8

1. 暗灰褐色土（耕作土）
2. 黄色中粒砂混じり灰色細粒砂
3. 灰色細粒砂・黄色細粒砂混じり灰色粘土
4. 暗褐色土
5. 小礫混じり暗褐色土（4 より硬い）
6. 小礫混じり黒色土（杭など含む）
7. 黒色土混じり灰色細粒砂（水路）
8. 黒色砂質土
9. 角礫（10cm大）混じり黒色土

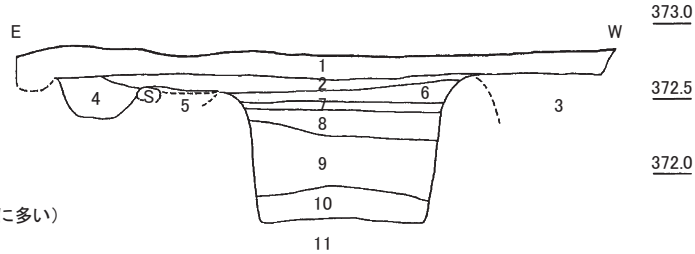


T3

1. 暗灰褐色土
2. 黄褐色砂礫層
3. 小礫混じり・黒色土ブロック混じり灰色砂礫層
4. 小礫混じり黒色土（旧耕作土の撹乱？）
5. 灰色粘質土

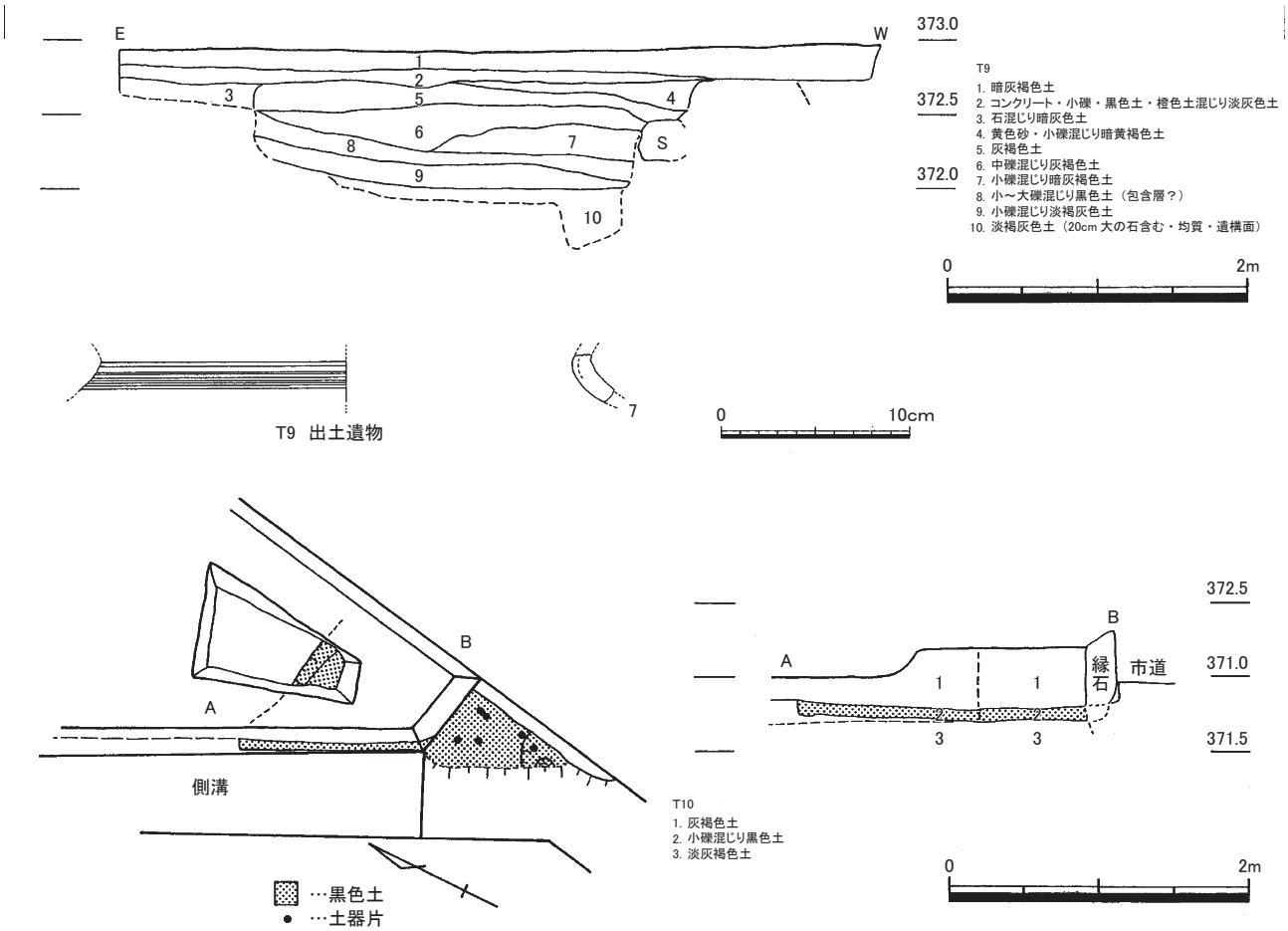
T4

1. 灰褐色土（耕作土）
2. コンクリート混じり小石層（路面か）
3. 小石層（石垣裏込）
4. 黄色砂と灰色砂（旧路面の石の側溝？）
5. 灰色土（側溝の石の埋土？）
6. 黒褐色土（小礫の粒混・礫多）
7. 鉄分・小礫混じり褐色土（小礫多い・礫多）
8. 小礫・小石混じり黒色土（小石・礫多い）
9. 小礫混じり淡褐灰色土（本来の遺構面？・礫は層の上位に多い）
10. 淡褐灰色砂礫層
11. 淡褐灰色中粒砂



0 2m

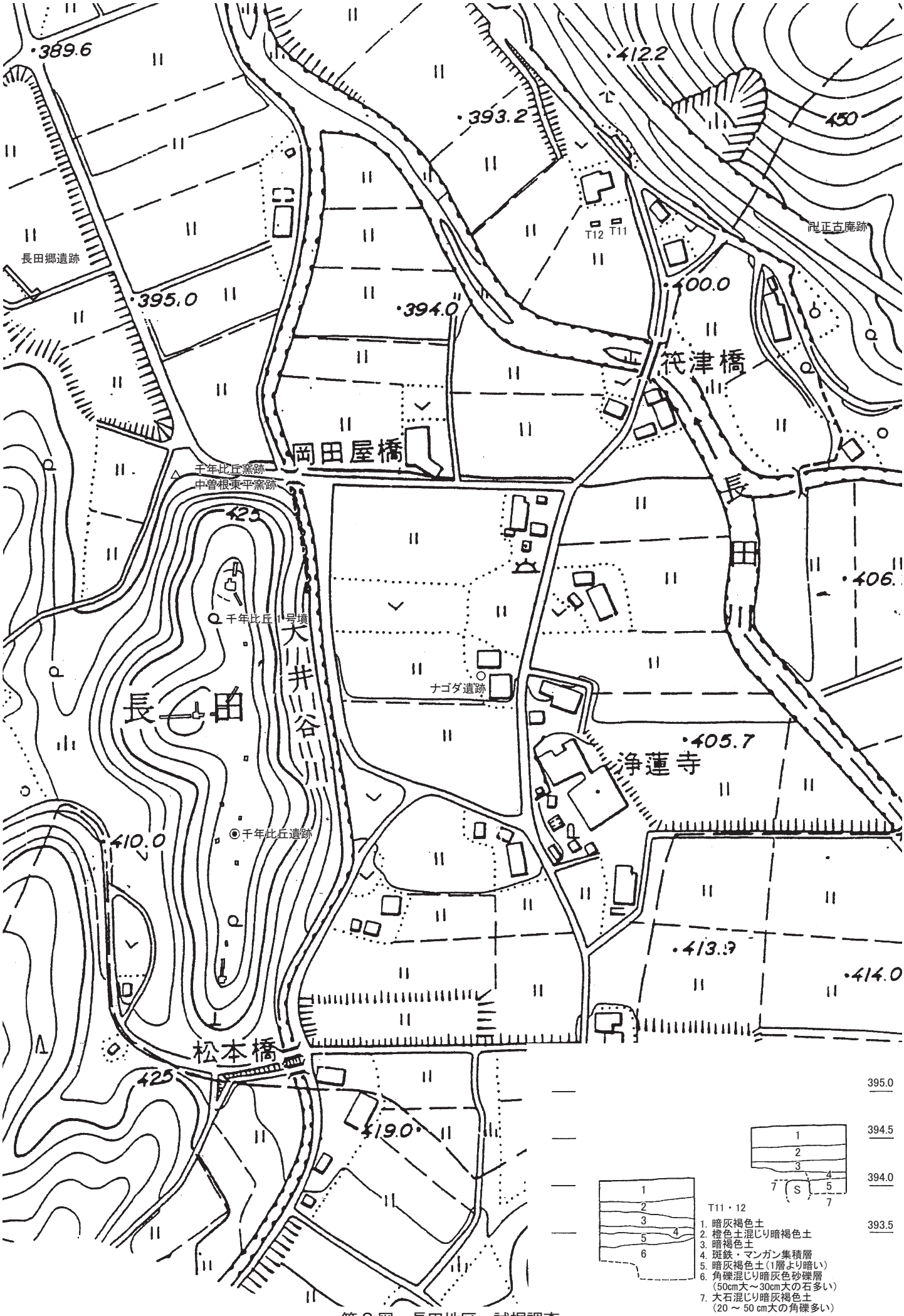
第６図　Ｔ２・Ｔ８・Ｔ３・Ｔ４　実測図



第７図　Ｔ９・Ｔ 10　実測図

	弥生土器	古墳～古代土師器	須恵器（蓋杯）	須恵器（甕･壺類）	中世土師器	瓦質土器	近世～現代					その他	合　計
							肥前系		石見焼		その他		
							陶器	磁器	陶器	瓦			
T1	13	10	1	1	17	1	2	11	4	12	2	18	92
T2	2	5	2	1	6		1	9	2	4	3	15	50
T3										4		2	6
T4	1		1	1	4								7
T5					2								2
T6									2				2
T7								1				1	2
T8		9	2		11	1		6	4	2		11	46
T9				1				2	3			1	7
T10	10	6								1			17
T10南黒色土	2	40						1					43
合計	28	70	6	4	40	2	3	30	15		5	48	251

表１　遺物破片点数表



第８図　長田地区　試掘調査

T11・T12 柱状図（S＝1/50）

第３節　七渡瀬Ⅱ遺跡発掘調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

はじめに

七渡瀬Ⅱ遺跡は島根県浜田市金城町波佐地内に立地する。本報告は、遺跡周辺の古環境推定の目的で、浜田市教育委員会が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した花粉分析及びＡＭＳ年代測定の概報である。

試料について

第４章第１節の第5･6図（70～71頁）に示したＴ１～Ｔ３トレンチの４地点で分析試料を採取した。各地点の模式柱状図と試料採取層準を図２～５の花粉ダイアグラム中に示した。また、Ｔ３トレンチ（№4地点）試料№1を分割して、年代測定と花粉分析に用いている。

ＡＭＳ測定年代方法・測定結果

渡辺（2006）にしたがって前処理、測定を行った。較正年代はINTCAL04を用いて、OxCal 4.1により算出した。

ＡＭＳ年代測定結果を表１に示し、図２にOxCalによる較正結果を示す。表１には、３種類の年代と、δ^{13}C値を示してある。補正δ^{14}C年代は、^{14}C濃度が環境により変動することから、δ^{13}Cを測定し、δ^{13}C＝－25‰に規格化した^{14}C濃度を求め、リビーの半減期（5568年）を用いて年代値を算出したもの（暦年較正用年代）を５年単位で丸めた値で、西暦1950年からさかのぼった年代値で示してある。一方暦年代は、時代（時間）とともにランダムに変化している大気中二酸化炭素の^{14}C濃度を、樹木の年輪や海底堆積物のしま状粘土、サンゴの年輪から明らかにして得られた暦年代較正データ（INTCAL04）を用いて、較正したものである。

花粉分析方法・分析結果

花粉分析処理は、渡辺（2009）に従った。分析結果を図３～６の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは、計数した木本花粉を基数にし、各々の木本花粉、草本花粉、一部の胞子について百分率を算出してスペクトルで表した。また左端に示した花粉総合ダイアグラムでは、木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、分類群ごとに累積百分率として示した。右端には、比例計算により求めた分析試料1g（湿潤重量）当たりの含有量（粒数）を示した。また中村（1974）に従い、イネを含む可能性が高いイネ科（40ミクロン以上）とイネを含む可能性が低いイネ科（40ミクロン未満）に細分している。

花粉分帯

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料№も下位から上位に向かって記した。

⑴Ⅲ帯（№1地点試料５～３、№2地点試料３、№3地点試料６、５）

木本花粉化石の割合が、50－60％を占める。スギ属が卓越し、マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属、アカガシ亜属が数％の出現率を示す。

⑵Ⅱ帯（№1地点試料２、№2地点試料２、１、№3地点試料４）

木本花粉化石の割合が20－30％程度に下がる。スギ属が30－40％と卓越するが、マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が15－20％程度まで増加する。このほか、クマシデ属－アサダ属、ブナ属、

アカガシ亜属が数％の出現率を示すようになる。

⑶Ⅰ帯（№1地点試料1、№3地点試料3～1）

木本花粉化石の割合は10－20％と低下し、草本花粉の割合が70％を超える。マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が30－40％程度まで増加し、スギ属は20％と減少する。

従来の結果との比較

渡辺・石賀（2008）は島根県西部の益田市内で、縄文時代前期以降の地域花粉層序を設定した。ここでは、6400yrs BPから1550yrs BPの間でスギ属が卓越し、アカガシ亜属を伴う。その後、マツ属（複維管束亜属）が急増し、スギ属が急減する。ただし、アカガシ亜属には変化がほとんど認められていない。浜田市内では北部の横路遺跡（川崎地質㈱；1997，1998）や川向遺跡（川崎地質㈱，2000）などで花粉分析が行われ、断続的にではあるが花粉組成変遷がまとめられている。ここでの木本花粉化石群集の変化は、渡辺・石賀（2008）と矛盾しない結果であった。

今回得られたⅢ帯ではスギ属が木本花粉化石のほとんどを占め、弥生時代～中世の植生を示すとされることから、渡辺・石賀（2008）のMGS2－Ⅱ帯a亜帯に対比できる。ただし、既知の結果ではアカガシ亜属が付随種としてとらえられている事に対し今回の結果ではアカガシ亜属がほとんど検出されず、コナラ亜属の出現率が、アカガシ亜属を上回る。一方、浜田市下府平野の横路遺跡や川向遺跡の弥生時代～中世とされる層準の花粉化石群集は、マツ属（複維管束亜属）が増加傾向を示すことから、今回のⅡ帯、あるいはⅠ帯が対比される。ただし、既知の結果ではアカガシ亜属が付随種としてとらえられている事に対し、やはり今回の結果ではコナラ亜属がアカガシ亜属を上回ったままである。

アカガシ亜属の出現率が低い理由を、暖温帯に位置する平野部（益田平野、下府平野）と山間部（波佐盆地）の植生の違いと考えることが一般的であろう。しかし、波佐盆地はTP+370m程度と、暖温帯上部に属する標高である。このことは、周囲の山地高所にはブナ林、ミズナラ林が分布するものの、低所には社寺林としてカシ林が残存していることからも明らかである。したがって、山地高所からもたらされたはずのコナラ亜属が、より近い盆地縁辺の山地低所に生育していたアカガシ亜属より高率になることはありえない。このような現象は、盆地内のカシ類が選択的に伐採されたととらえると容易に説明が可能である。したがって、Ⅲ帯の時期には森林に対して人間の干渉が働いていたものと考えられる。

古環境変遷

花粉分析結果に基づいて、花粉帯ごとに遺跡周辺の古環境を推定した。古環境変遷が明確になるように、下位から上位に向かって示した。

また前述のように、調査地点の現地表面の標高はＴＰ＋374mであり、植生帯の暖温帯上部に位置する（八幡宮社寺林：常盤山のカシ林として、スギを混淆する林が現存）。周囲の山地は東に1000m程度の尾根が続き、天然林であるブナ林が分布する。南、西、北には500～800mとやや低い尾根が続き、低所には暖温帯の二次植生であるコナラ林、高所にはブナ林や二次植生のミズナラ林が分布する。

⑴Ⅲ帯以前（cal.BC 1115～935ごろ）

堆積物は青灰色の粘土で、有機物が含まれているもののわずかで、洪水などにより短時間のうちに堆積した可能性がある。草本花粉、胞子の割合が高かったことを加味すると、調査地近辺には草地が広がり、洪水時に凹地を埋めて粘土がたまったものと考えられる。一方、花粉化石の含有量が少なかったものの、上位の層準でも含有量の少ないアカガシ亜属が検出できた。このことから、カシ類が遺跡近辺に生育していた可能性が高い。先に示した常盤山のカシ林で認められるような林が、盆地縁辺の山地低所に広がっていた可能性がある。

⑵Ⅲ帯期（弥生時代～中世）

淘汰の悪い、腐植質に富む堆積物であった。地形図を見る範囲で、調査地に湿地が広がっていたと考

えられる地形ではない。むしろ、ため池など人口の沼沢地内で堆積した可能性も指摘できる。

草本、胞子の割合がほぼ50％を占め、調査地近辺には沼沢地（ため池？）が造られ、周辺に草地や田畠が広がっていたと推定できる。調査地近辺の谷斜面や扇状地端部にはスギ林が広がっていたと考えられる。一方で、開発が進んでカシ林は跡形もなく伐採された。燃料材としてのカシの商品価値が、建築材としてのスギの商品価値を上回り、スギが伐採されずに残ったと考えられる。顕著な二次林化の傾向（マツ属（複維管束亜属）やコナラ亜属の増加）が認められないことから、カシ類の伐採跡は茅場や焼き畑として利用された可能性がある。

⑶Ⅱ帯期

淘汰の悪い腐植質の砂質粘土であり、草本の割合が高く、特にイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、ソバ属も検出される。水田雑草のオモダカ属、イネ科（40ミクロン未満）、キカシグサ属やキンポウゲ科も検出される。これらのことから、調査地一体が水田として利用され、裏作や休耕中に畑、あるいは畦を利用してソバが栽培されていたと考えられる。このころになるとスギも伐採されるようになる。スギの伐採跡（前時期のカシ類伐採跡も含めて）は開墾されて田畑になったり、アカマツやコナラを主要素とする「里山」に変わっていったりしたと考えられる。

⑷Ⅰ帯期

淘汰の悪い腐植質の砂質粘土であり、草本の割合が更に高くなる。伴ってイネ科（40ミクロン以上）も更に高率になり、ソバ属も検出される。また、水田雑草の種類や量も増える。これらのことから、調査地一体が引き続き水田として利用され、裏作や休耕中に畑、あるいは畦を利用してソバが栽培されていたと考えられる。スギは更に伐採され、アカマツやコナラを主要素とする「里山」の分布が更に広がった。アカマツやコナラは、鈩製鉄などに利用された可能性も指摘できる。

まとめ

七渡瀬Ⅱ遺跡での発掘調査に伴い花粉分析及びAMS年代測定を実施して、遺跡埋積時の古環境を推定した。今回の分析で明らかになった主な事柄を以下に示す。

① AMS年代測定としてcal.BC 1115 － 935ごろ（縄文時代後期末から晩期初頭）の年代が得られた。

②地域花粉帯として、Ⅲ～Ⅰ帯を設定した。また、Ⅲ帯は出土遺物から弥生時代～中世の植生を示すと考えられ、平野部の分析結果と矛盾しなかった。

③Ⅲ帯の時期以前に、人間活動によるカシ類の選択的伐採が行われていたと考えられる。

④調査地点が水田化したのはⅡ帯の時期で、同時にソバ栽培も行われていた。

⑤Ⅱ帯の時期にはスギ林が伐採され、現在認められるようなマツ林やコナラ林が盆地縁辺の山地低所に広がっていったと考えられる。

引用文献

川崎地質株式会社（1998）横路遺跡（原井ヶ市地区）発掘調査における花粉分析．横路遺跡（原井ヶ市地区）－浜田東中学校建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－，65 － 71，島根県浜田市教育委員会．

川崎地質株式会社（2000）川向遺跡発掘調査における自然科学分析．川向遺跡－多陀寺川荒廃砂防事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－，40 － 46，浜田土木建設事務所・浜田市教育委員会．

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究，13，187 － 197．

渡辺正巳・石賀裕明（2008）島根県西部益田平野における過去6400年間の環境変遷．植生史研究，16⑴，3 － 10．

渡部正巳（2006）松江市山津窯跡における灰原内の炭のAMS年代測定と樹種．大井窯跡群山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書，472 － 477，㈶松江市教育文化振興事業団．

渡部正巳（2009）花粉分析法．埋蔵文化財調査の基礎テクニック，239 － 242．ニュー・サイエンス社

表１　AMS 年代測定結果

試料			$\delta^{13}C$ (‰)	補正^{14}C (yrBP)	暦年較正用年代 (yrBP)	暦年較正年代		測定番号 (PLD−)
No.	遺構名	状態				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
4−1	T1 4層	腐植土 乾燥	−23.23±0.11	2855±20	2854±18	BC1050−980(68.2%)	BC1114−1099(2.9%) BC1090−971(83.6%) BC961−935(8.9%)	14376

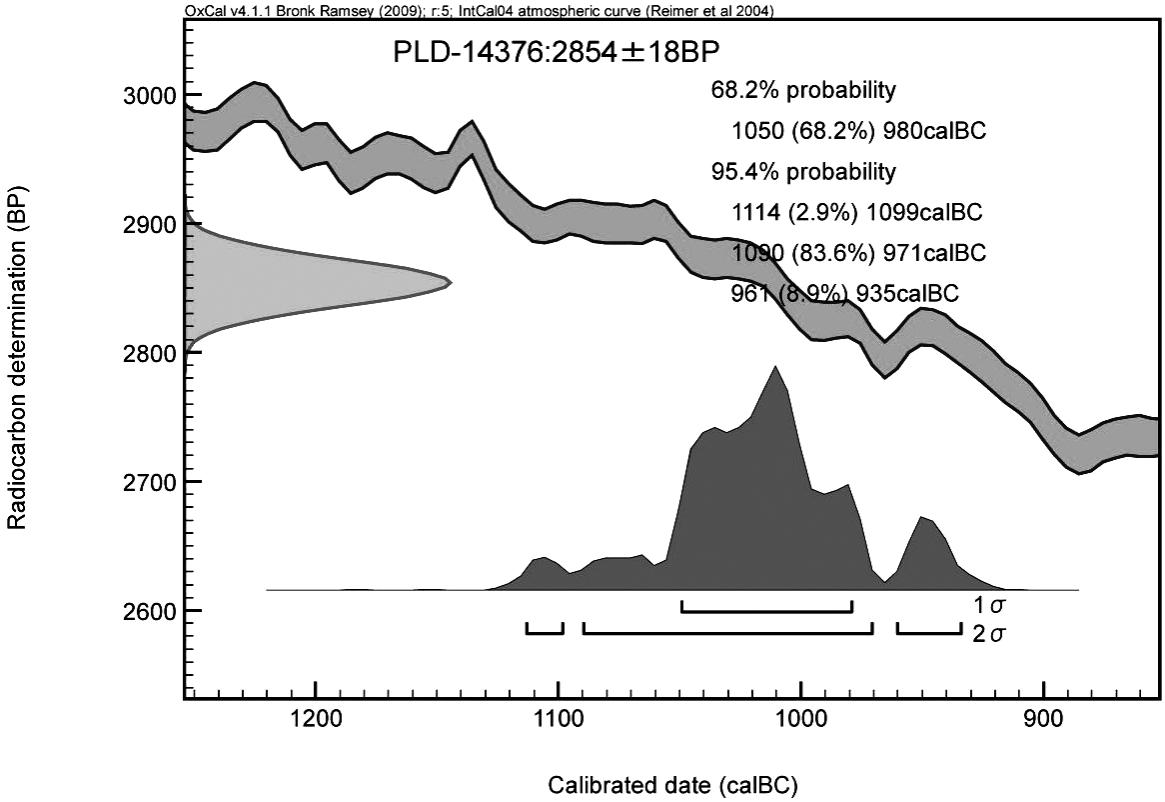


図１　暦年較正結果

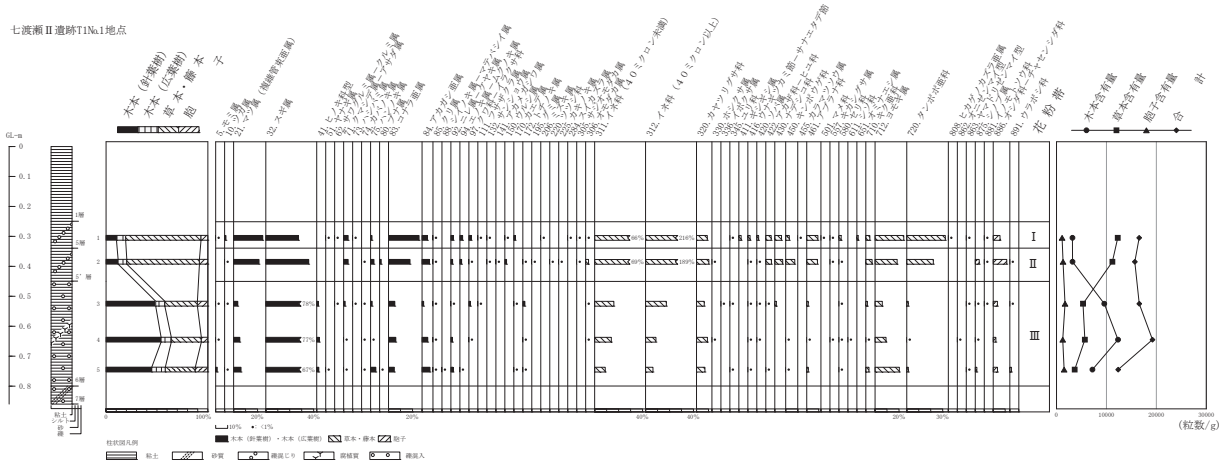


図２　　T1No.1 地点の花粉ダイアグラム

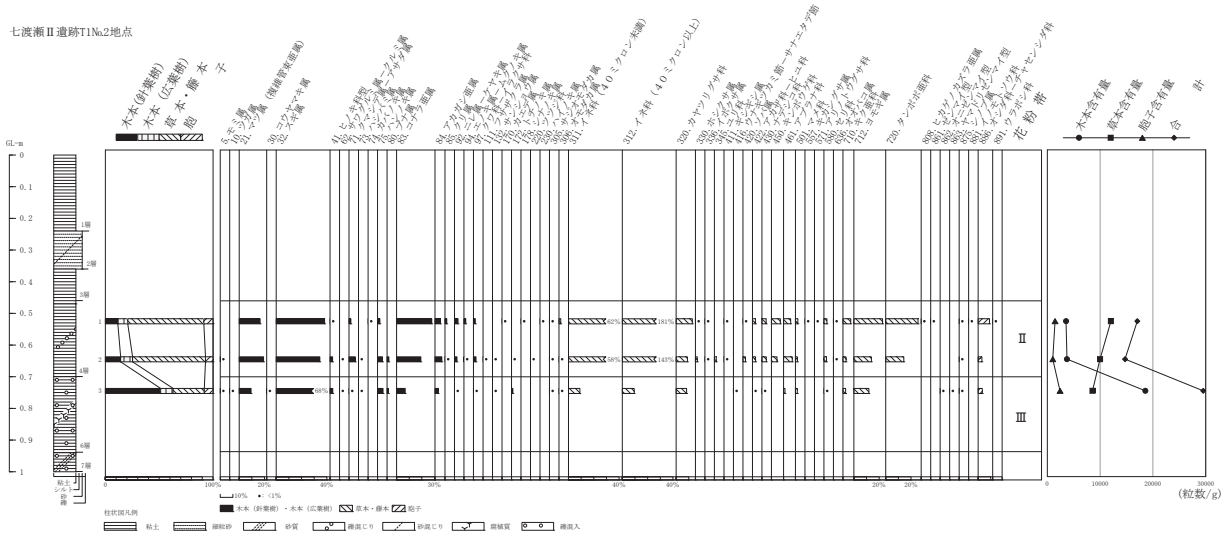


図３　T1No.2 地点の花粉ダイアグラム

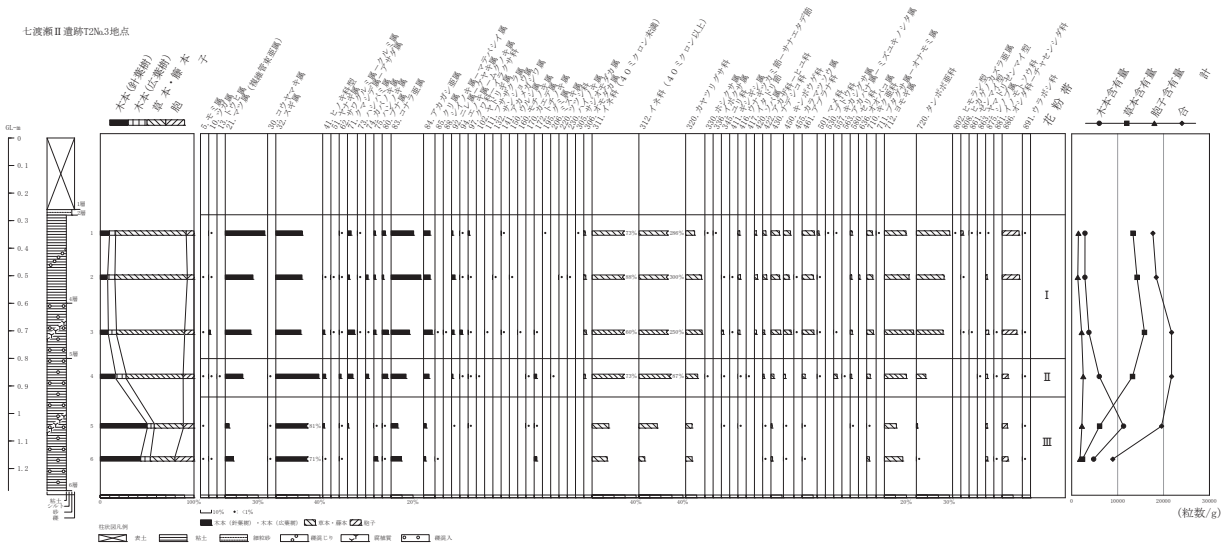


図４　T2No.3 地点の花粉ダイアグラム

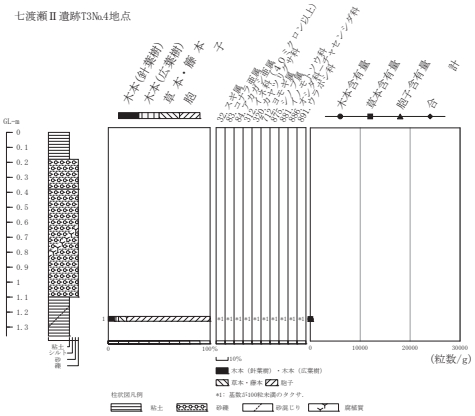


図５　T3No.4 地点の花粉ダイアグラム

第４節　総　括

七渡瀬Ⅱ遺跡確認調査では、弥生～中世・近現代の遺物がＴ１・Ｔ２・Ｔ８・Ｔ10にかけて多く出土するが、細片が多い。水田面の調査区（Ｔ１・Ｔ２・Ｔ８）の黒色土では板材を加工した杭のような木質も見つかるが、時期が不明確である。Ｔ８の黒色土西側では細粒砂が混じり板や杭が横になって見つかる場所がある。明確な掘り込みは黒色土中のため確認できないが、暗渠状の水路があった可能性もある。他の調査区でも遺構は確認できなかった。今回の調査区は遺跡の山側縁辺部にあたり、遺物は細片のものが大半である。

これまで竪穴住居が調査された標高は372～373ｍ前後の平坦地にあたり、河岸から約2.3m高い位置にある。今回の調査区ではＴ３・Ｔ４・Ｔ８がこの高さにあたるが、遺構は確認できなかった。Ｔ１・Ｔ２・Ｔ８は傾斜地で、東側の谷からの崩落土と遺構は確認できない。最も標高の低い北側のＴ５～Ｔ７でも遺構は確認できない。竪穴住居が調査された地点より標高の低い川側は砂礫層で遺構は確認されていない。

Ｔ10では標高371.5ｍ付近で直線状の落込みが確認され、土師器細片が見つかった。古墳時代の隅丸か方形の竪穴住居の可能性もあるが、既に周辺は削平されている。国道法面の立会調査と併せて見ると、黒色土は幅約1.8m以上拡がっている。平成３～５年の発掘調査では竪穴住居が３棟見つかっている（金城町教育委員会編1994・第９・10図）。このうち１－ａ号住居・２号住居・３号住居が古墳時代で最も多く、須恵器が出土しておらず前半期と考えられる。Ｔ10落込みの遺物も細片だがほぼ同時期頃と見られる。

遺物では古代の可能性がある平瓦片（第５図・2）が１点出土したことが注目される。凸面に一部格子状の叩き目、凹面に布目痕を残す。平成３～５年調査の１－ｂ号住居は奈良～平安時代頃と見られ、壁際に粘土を用いたカマドを造っている。なお、中央にあったとされる炉跡は土層図では１－ｂ号住居の埋土上にあるように見え、後出の可能性もある。柱穴群もこの時期のものを含むと見られ、遺跡全体から須恵器も出土している。

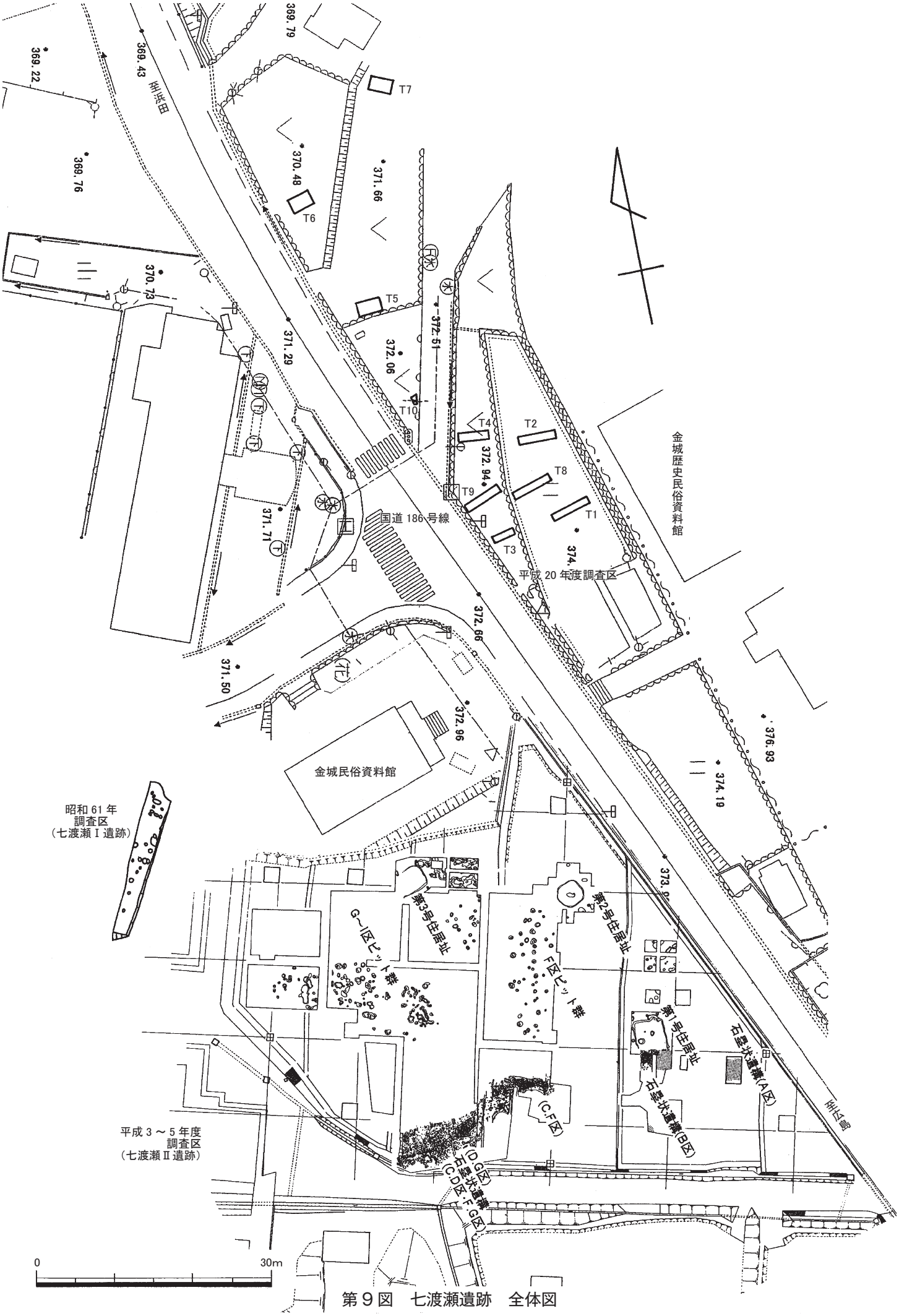
Ｔ３の最下層（灰色粘質土）で採取した炭化物のAMS年代測定結果として、cal.BC 1115－935ごろ（およそ縄文時代後期末から晩期初頭）の年代が得られている（第３節参照）。これまでの調査では平成３～５年度調査区で縄文時代後期中葉の鐘崎式系土器が出土しており（金城町教育委員会編1994）、現段階での遺跡の開始時期を知ることができる。遺構の分布や遺物量からみて、遺跡の中心も平成３～５年度調査区（現在のときわ会館駐車場周辺）と考えられる。

長田地区試掘調査では、山側からの土石流が堆積する地点（Ｔ11）と、川側の影響を受けた河原と見られる砂礫層が堆積する地点（Ｔ12）に分けられる。遺跡は確認できなかった。長田地区の遺跡は長田川・大井谷川の西側で多く確認されており、長田郷遺跡、千年比丘１号墳、波佐一本松城跡などがある。このうち、最も遺物の多いのは今回の試掘調査地点の対岸にあたる長田郷遺跡で、城ノ前遺跡も含む範囲と見られる。長田川と支流にあたる大井谷川の合流部で南側の丘陵上には古墳時代前期の小規模円墳である千年比丘１号墳がある。

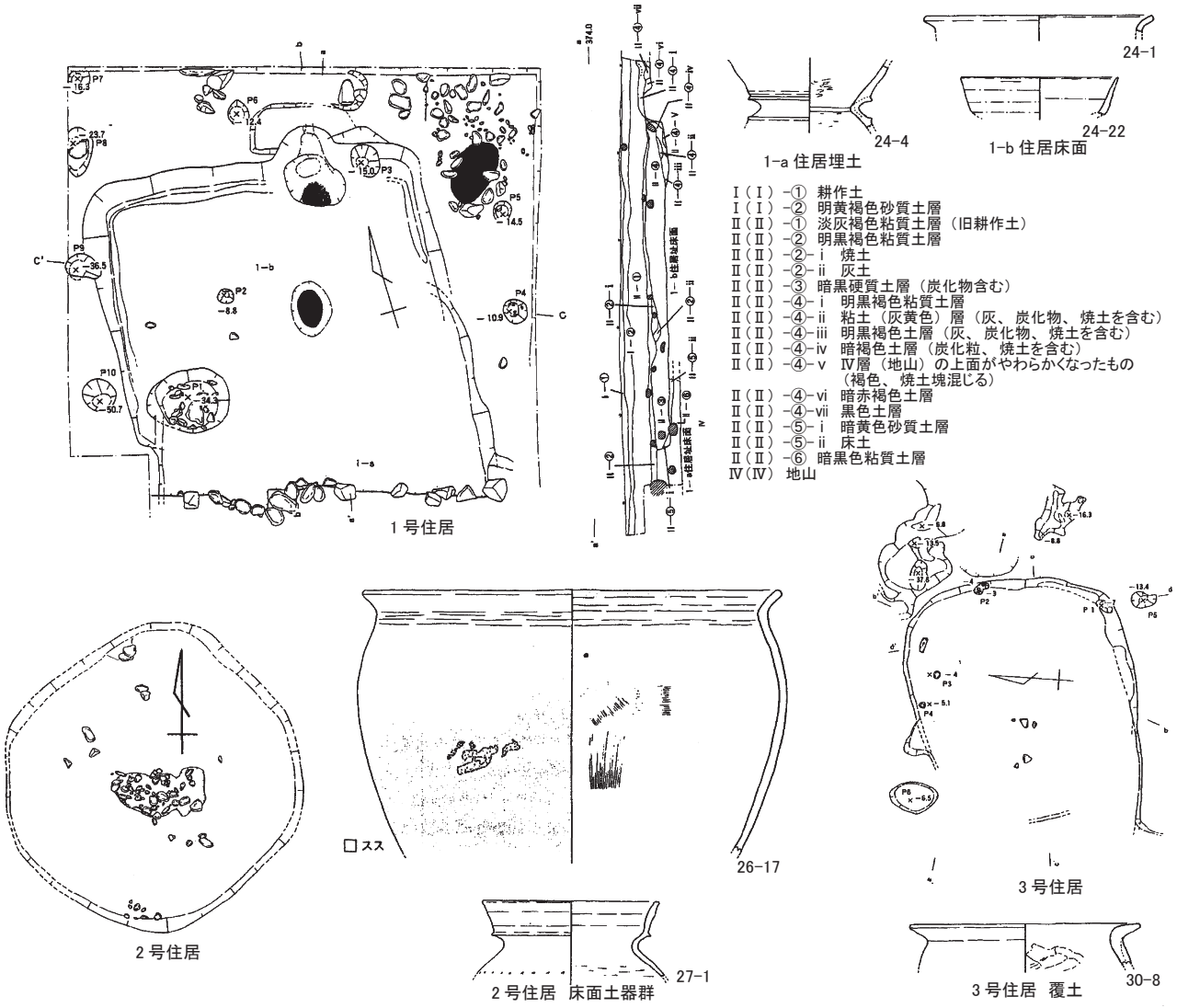
今回の調査地点周辺は遺跡の多い対岸に比べ平地が少なく、山側からの崩落・土石流が見られることから、あまり生活に適さない環境と考えられる。

参考文献

金城町教育委員会1986『島根県那賀郡金城町遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ　－波佐・長田地区－』
金城町教育委員会1987『島根県那賀郡金城町遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』
金城町教育委員会1987『七渡瀬遺跡発掘調査報告書』
金城町教育委員会編1994『波佐《島根県那賀郡金城町波佐地区における考古学的調査》』



第９図　七渡瀬遺跡　全体図



第 10 図　七渡瀬Ⅱ遺跡の竪穴住居と遺物

『波佐』1994　金城町教育委員会編より転載・一部加筆

調査前（国道 186 号線より）

調査状況

調査前（T5・T6・T7）

T1

T1　西側土層

T2

T3

T4

T5

T6

T7

T8

T9

T10　黒色土検出状況

T10　黒色土調査後

T10

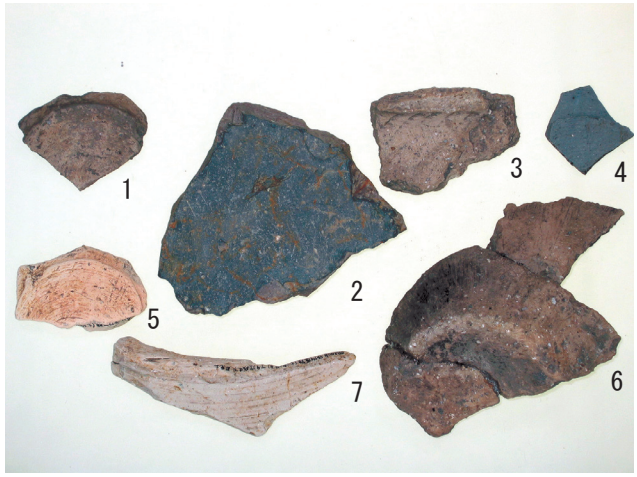
T10　西側（歩道法面）黒色土検出状況

長田地区　調査前（正面丘陵は千年比丘古墳群）

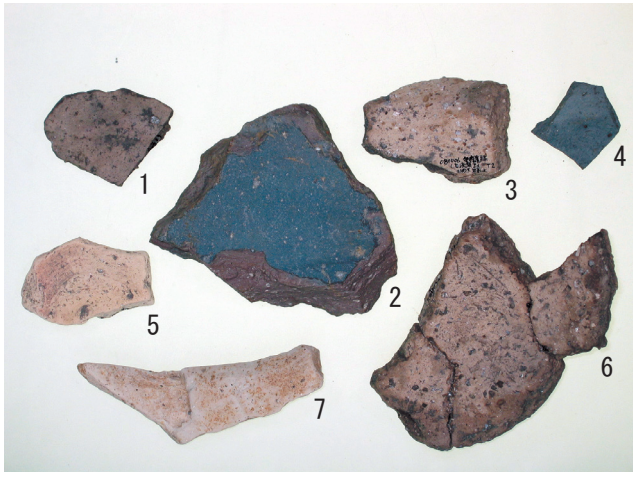
長田地区　調査前（正面は波佐一本松城）

T11

T12



出土遺物(1)



出土遺物(2)

出土遺物(3)

報　告　書　抄　録

ふりがな	しまねけんはまだしいせきちずに（かなぎじちく）・ななわたせにいせき
書名	島根県浜田市遺跡地図Ⅱ（金城自治区）・七渡瀬Ⅱ遺跡
副書名	平成20年度市内遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	榊原　博英
編集機関	島根県浜田市教育委員会
所在地	〒697－8501　島根県浜田市殿町1番地　TEL.0855－22－2612㈹
発行年月日	2010年3月

ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ななわたせにいせき 七渡瀬Ⅱ遺跡	島根県浜田市 金城町波佐 イ441-3・ イ427-2・ イ426-4・ イ427-1	32202	L192	34°50′40″	132°07′18″	20081006～ 20081022	66.5㎡	確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
七渡瀬Ⅱ遺跡	集落跡	弥生・古墳・ 古代・中世・近世	杭	弥生土器・土師器・ 須恵器・中世土師器	遺物細片が 出土

要約	七渡瀬Ⅱ遺跡は、金城町波佐に所在し、周布川東側の河岸段丘上に位置する。これまでの発掘調査で縄文時代後期後半～弥生時代末・古墳時代前期の竪穴住居～古代・中世の柱穴群が確認されており、波佐・長田地区の中心的遺跡とされている。弥生～中世・近現代の遺物が山側を中心に出土したが、明確な遺構は確認できなかった。T10では直線状の落込みが確認され、土師器細片が見つかった。古墳時代の方形竪穴住居の可能性もあるが、既に周辺は削平されている。 今回の調査区は遺跡の山側縁辺部にあたり、遺跡の中心はこれまで面的に発掘調査された地点（ときわ会館周辺）と考えられる。 七渡瀬Ⅱ遺跡のある波佐地区よりさらに南の広島県境に接する長田地区の水田部で試掘調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。

島根県浜田市遺跡地図Ⅱ（金城自治区）・七渡瀬Ⅱ遺跡

平成20年度市内遺跡発掘調査報告書

発行　島根県浜田市教育委員会　2010年3月

島根県浜田市殿町1番地

印刷　　有限会社　原 印刷